

II. 調查報告

(1) 障害児・者のスポーツライフに関する調査

主な調査結果

週 1 日以上スポーツ・レクリエーションの実施は、7～19 歳が 29.6%、成人が 20.8%

障害児・者が週 1 日以上、何らかのスポーツ・レクリエーションを実施していたのは、7～19 歳が 29.6%、成人が 20.8%だった。障害種別では、7～19 歳では、発達障害の約 4 割が週 1 日以上スポーツ・レクリエーションを実施しているのに対して、精神障害では約 2 割、肢体不自由(車椅子必要)(車椅子不要)では 2 割以下だった。成人では、ほとんどの障害で約 2 割だったが、肢体不自由(車椅子必要)では約 1 割だった。【図表 1-18、1-20】

過去 1 年間に実施したスポーツ・レクリエーションの上位種目は、7～19 歳が水泳、散歩、体操、成人が散歩、ウォーキング、水泳

過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを実施した人が行った種目は、7～19 歳では「水泳」「散歩(ぶらぶら歩き)」が多く、成人では「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」が多かった。【図表 1-27、1-28】

スポーツ・レクリエーションを行う主な目的は、健康の維持・増進、気分転換・ストレス解消のため

スポーツ・レクリエーションは、主に「健康の維持・増進のため」「気分転換・ストレス解消のため」を目的に実施されている。障害種別では、肢体不自由では、「リハビリテーションの一環として」が約 1 割以上を占め、知的障害では「目標や記録への挑戦のため」が 10.9%とほかの障害と比べて高かった。【図表 1-32、1-34】

スポーツ・レクリエーションを行う施設は、公共スポーツ施設の体育館、プール(屋内)、グラウンド

スポーツ・レクリエーションのために利用したことがある施設は、「公共スポーツ施設の体育館」「公共スポーツ施設のプール(屋内)」「公共スポーツ施設のグラウンド」が多かった。「その他」では、「デイケア・デイサービス」「病院・病院周辺」「自宅・自宅周辺」「公園」などであった。【図表 1-38】

半数の障害児・者がスポーツ・レクリエーションに関心がない

スポーツ・レクリエーションの取組に対して、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」との回答が 51.5%を占めており、2 人に 1 人の障害児・者がスポーツ・レクリエーションに無関心であった。知的障害では、約 6 割が無関心であり、重度の障害者を障害種別に見ると、視覚障害では 32.7%が「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」となり、本人の興味・関心があるが実施できていない実態が明らかになった。【図表 1-39、1-41、1-42】

重度障害者のスポーツ・レクリエーション実施の障壁は、交通手段・移動手段がない

スポーツ・レクリエーションの実施において障壁となっているものは、「特になし」が 37.3%で、障壁があると回答した中では、「金銭的な余裕がない」(21.5%)が最も多く、次いで「体力がない」(20.9%)、「時間がない」(14.2%)、「交通手段・移動手段がない」(9.4%)、「仲間がいない」(8.8%)であった。重度の障害者を障害種別に見ると、肢体不自由(車椅子必要)、視覚障害、知的障害、発達障害、精神障害において、「交通手段・移動手段がない」が 1 位であった。【図表 1-45、1-47】

1. 調査概要

1. 1 調査目的

本調査は、全国の障害児・者のスポーツ・レクリエーション活動の実施状況やニーズを把握し、今後の障害児・者へのスポーツ環境の提供に関する基礎情報を得ることを目的とする。

1. 2 調査方法及び回収結果

(1) 調査方法

無記名式のインターネット調査

(2) 調査内容

主な調査項目は、以下のとおりである。

- ・ 障害児・者の基本情報(障害の種類、障害者手帳の保有状況など)
- ・ スポーツ・レクリエーションの実施状況(実施種目、頻度、施設、目的など)
- ・ スポーツ・レクリエーションの実施における障壁
- ・ 今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション
- ・ スポーツクラブや同好会・サークルへの加入
- ・ 過去1年間のスポーツ観戦

(3) 調査対象及び回収結果

インターネット調査会社が保有するリサーチモニターのうち、以下に該当する者を調査対象とした。

- ・ 障害児・者本人あるいは同居する家族で障害児・者がいる
- ・ 障害児がいる場合、7歳以上である

該当する回答者は5,909人であった。その属性は以下のとおりである(図表1-1、図表1-2、図表1-3)。兄弟、姉妹、第2子以降の子で障害児・者が複数いる場合は、それぞれ年齢が一番上の者についてのみ、回答を依頼した。その結果、回答者本人及び同居する家族内の障害児・者を含めた障害児・者の総数は8,094人であった。

図表 1-1 回答者の居住地

(N=5,909)

居住地	%
北海道地方	5.4
東北地方	5.7
関東地方	37.5
中部地方	15.1
近畿地方	20.4
中国地方	5.2
四国地方	2.3
九州地方	8.5

図表 1-2 回答者の年齢

(N=5,909)

年齢	%
19 歳以下	1.1
20～29 歳	7.8
30～39 歳	18.4
40～49 歳	31.4
50～64 歳	33.9
65～74 歳	6.6
75 歳以上	0.8

図表 1-3 回答者の性別

(N=5,909)

性別	%
男性	58.7
女性	41.3

(4) 調査期間

2017 年 9 月 1 日～2017 年 9 月 30 日

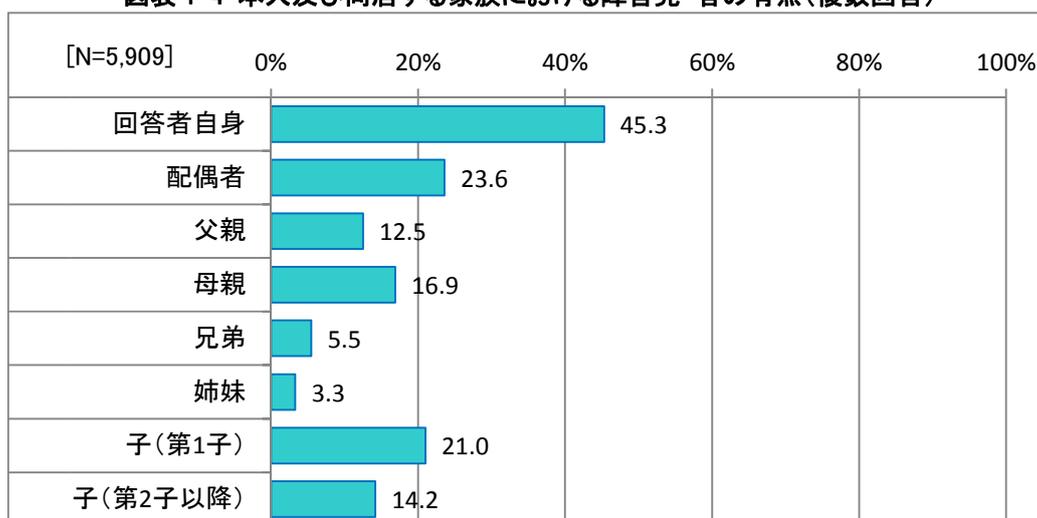
2. 調査結果

2.1 障害児・者の属性

(1) 本人あるいは同居する家族における障害児・者の有無

回答者本人あるいは同居する家族に障害児・者がいるかについて、「回答者自身」(45.3%)が最も多く、次いで「配偶者」(23.6%)、「子(第1子)」(21.0%)であった(図表 1-4)。

図表 1-4 本人及び同居する家族における障害児・者の有無(複数回答)

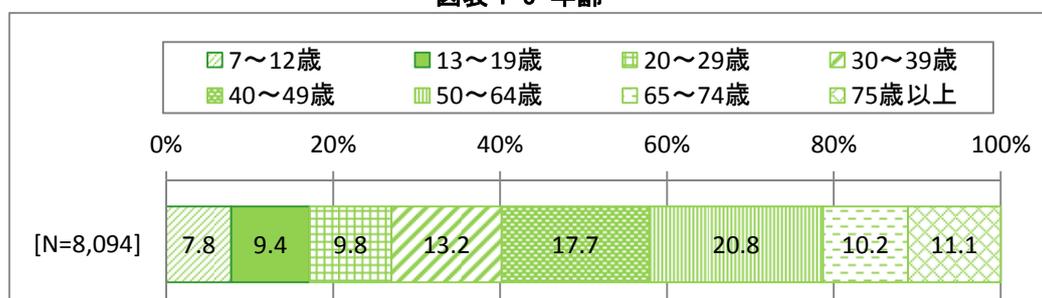


以後の報告では、障害児・者本人及び同居する障害児・者 8,094 人に関する回答結果を示す。

(2) 年齢

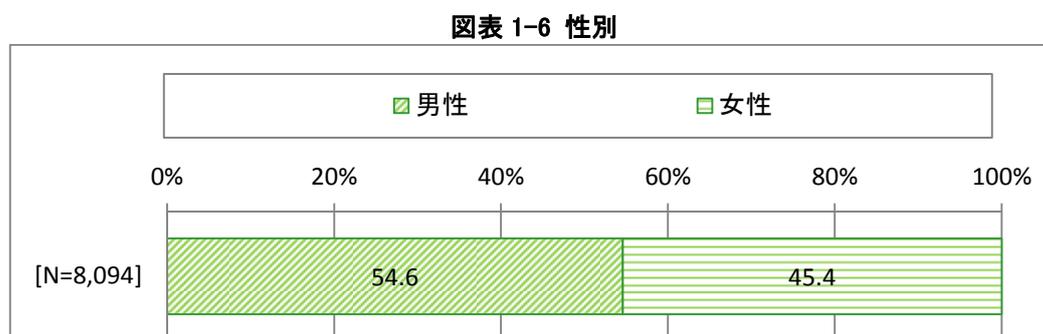
年齢は、7～19歳が17.2%、20～64歳が61.5%、65歳以上が21.3%であった(図表 1-5)。総務省の人口推計(2016年10月1日)では、7～19歳が12.3%、20～64歳が58.8%、65歳以上が28.9%であった。本調査の障害児・者の年齢分布は、国民全体と比べると高齢者の割合が低くなっている。

図表 1-5 年齢



(3) 性別

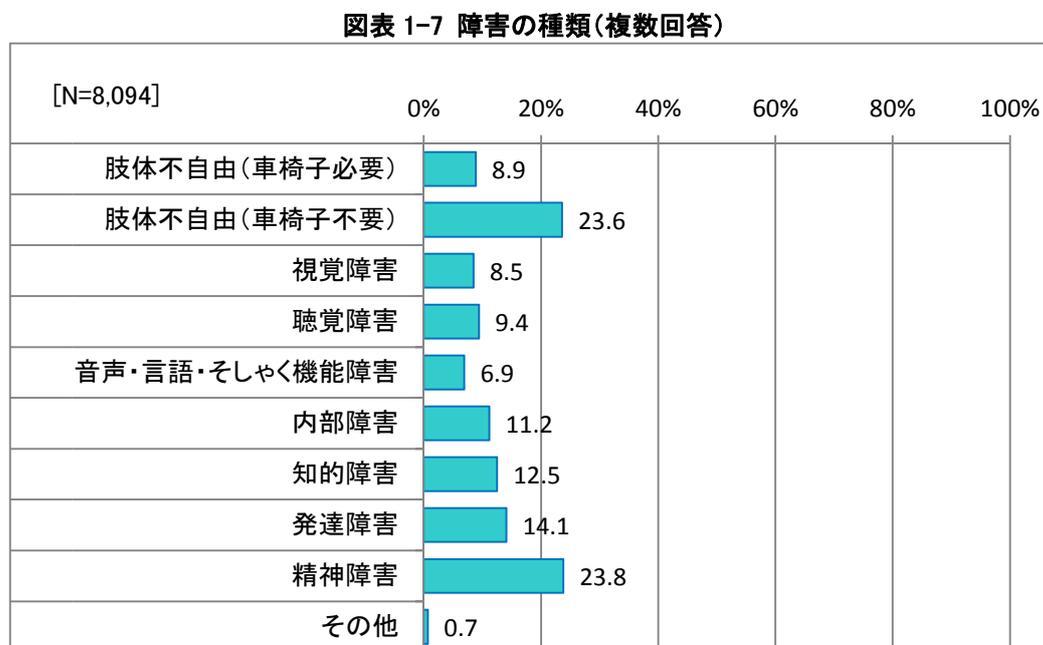
性別は、「男性」が54.6%、「女性」が45.4%であった(図表 1-6)。



(4) 障害の種類

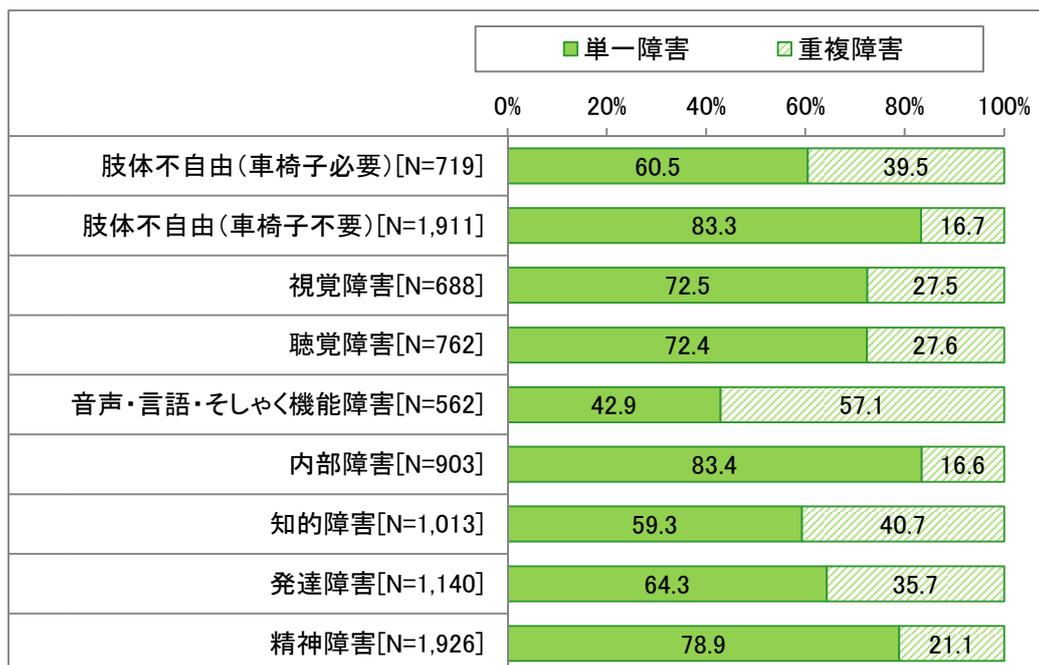
障害の種類は、「肢体不自由」が最も多く、日常生活で車椅子を必要とする人(8.9%)と必要としない人(23.6%)を合わせると、回答者の3分の1を占めた。以下、「精神障害」(23.8%)、「発達障害」(14.1%)、「知的障害」(12.5%)の順となっている(図表 1-7)。内閣府「障害者白書」(2017)によると、わが国の身体障害児・者は約392万2,000人、知的障害児・者は約74万1,000人、精神障害児・者は約392万4,000人となっている。

重複障害の割合を障害種別に見ると、「音声・言語・そしゃく機能障害」が57.1%と最も高く、「知的障害」「肢体不自由(車椅子必要)」でも、ほかの障害に比べて重複障害の割合が高い傾向が見られた(図表 1-8)。



注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

図表 1-8 単一障害・重複障害の比率



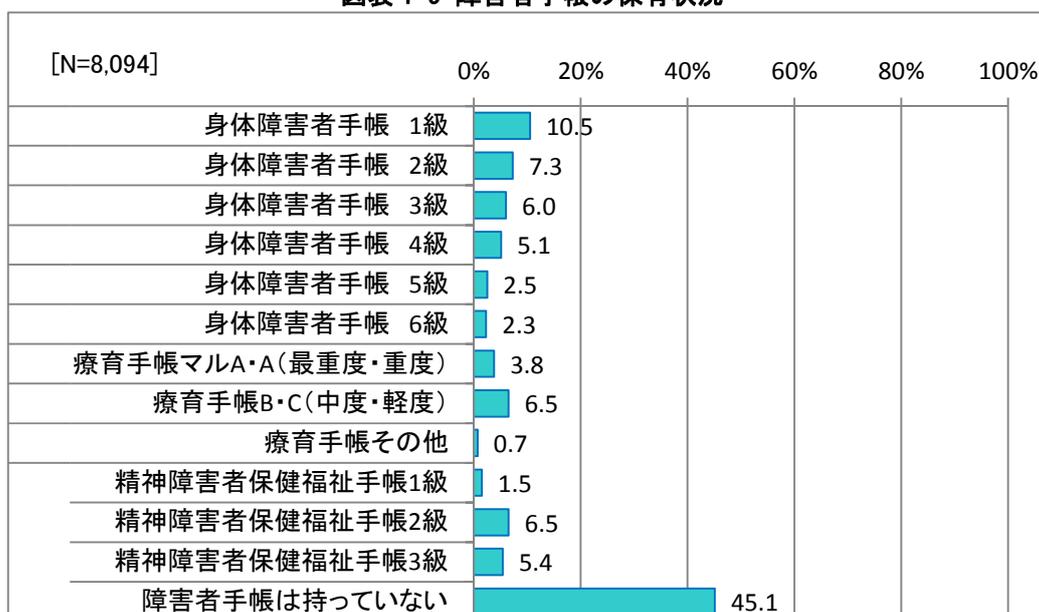
注)車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

(5) 障害者手帳の保有状況について

障害者手帳の保有状況について、「障害者手帳は持っていない」が 45.1%であった。障害者手帳を持っている人の中では、「身体障害者手帳 1 級」(10.5%)が最も多く、次いで、「身体障害者手帳 2 級」(7.3%)、「療育手帳B・C(中度・軽度)」「精神障害者保健福祉手帳2級」(6.5%)であった(図表 1-9)。身体障害者手帳では、等級が高いほど保有率が高い傾向が見られた。障害種別の障害者手帳の保有状況からは、重複して手帳を保持していることが分かる(図表 1-10)。

年齢別に見ると、65 歳以上の身体障害者手帳の保有がほかの年齢層に比べて高く、療育手帳は 29 歳以下の保有が高く、精神障害者保健福祉手帳では、年齢による差は見られなかった(図表 1-11)。

図表 1-9 障害者手帳の保有状況



図表 1-10 障害者手帳の保有状況(障害種別)

(%)

	肢体不自由(車椅子必要)	肢体不自由(車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)
	N=719	N=1,911	N=688	N=762	N=1,013	N=1,140	N=1,926	N=1,470
身体障害者手帳 1級	35.7	6.9	16.6	8.5	10.3	4.5	3.2	28.0
身体障害者手帳 2級	16.1	10.8	12.8	13.8	4.9	2.7	3.9	7.2
身体障害者手帳 3級	8.5	8.3	8.0	7.1	3.6	2.4	2.4	9.8
身体障害者手帳 4級	6.4	8.7	5.8	6.6	1.9	1.4	1.6	8.0
身体障害者手帳 5級	3.2	4.6	4.8	2.8	1.7	1.1	1.0	3.3
身体障害者手帳 6級	0.8	4.2	1.7	6.8	1.3	0.4	0.6	2.6
療育手帳マル A・A(最重度・重度)	5.7	1.7	1.7	2.8	24.7	6.9	1.4	3.2
療育手帳 B・C(中度・軽度)	1.1	0.9	1.7	2.2	35.1	18.8	3.1	2.1
療育手帳その他	0.3	0.5	0.1	0.3	2.3	2.2	0.3	0.4
精神障害者保健福祉手帳 1級	1.4	0.3	0.4	0.4	2.0	1.3	4.2	0.8
精神障害者保健福祉手帳 2級	1.0	1.5	1.3	0.7	2.4	9.4	23.4	1.2
精神障害者保健福祉手帳 3級	0.8	0.9	1.2	0.5	3.1	9.3	17.4	1.2
障害者手帳は持っていない	28.0	54.5	48.1	51.7	19.0	45.4	41.8	36.7

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) 重複障害の場合は、該当の障害全ての数値を含む。

図表 1-11 障害者手帳の保有状況(年齢別)

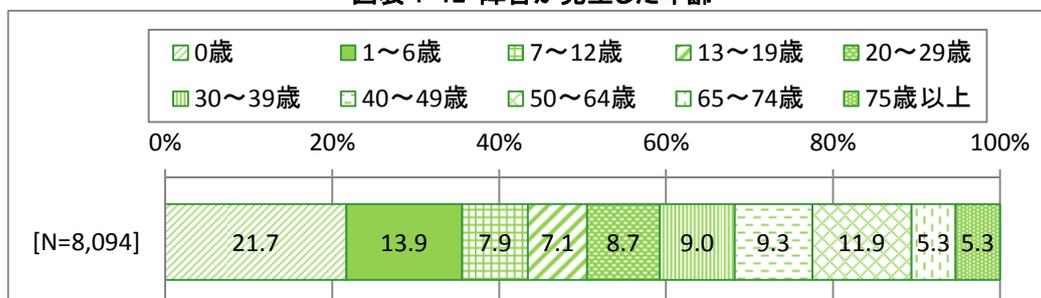
(%)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～64歳	65～74歳	75歳以上
	N=1,394	N=790	N=1,068	N=1,430	N=1,686	N=825	N=901
身体障害者手帳 1級	5.5	7.3	8.2	9.2	12.0	14.8	18.8
身体障害者手帳 2級	2.7	4.7	6.9	6.9	8.8	11.9	10.5
身体障害者手帳 3級	2.7	4.6	4.3	5.4	7.5	9.0	9.9
身体障害者手帳 4級	2.2	2.7	3.0	4.3	7.5	8.7	7.4
身体障害者手帳 5級	1.8	1.6	1.9	2.2	4.0	3.2	2.2
身体障害者手帳 6級	1.4	1.6	1.9	2.4	3.3	2.4	3.0
療育手帳マル A・A(最重度・重度)	8.6	11.5	4.5	1.7	0.7	1.0	0.7
療育手帳 B・C(中度・軽度)	18.6	15.9	6.8	3.1	0.9	1.1	0.3
療育手帳その他	1.7	1.0	1.1	0.6	0.2	0.1	0.3
精神障害者保健福祉手帳 1級	0.9	2.3	1.6	1.3	1.1	1.7	2.3
精神障害者保健福祉手帳 2級	2.7	7.1	10.4	11.1	7.7	3.2	1.2
精神障害者保健福祉手帳 3級	2.8	6.2	6.8	9.5	6.5	2.8	0.9
障害者手帳は持っていない	52.9	39.5	46.5	45.2	41.9	42.5	44.3

(6) 障害が発生した年齢

障害が発生した年齢は、「0歳」が21.7%、「1～6歳」が13.9%で、出生前・出生時や小学校就学前が全体の3割以上を占めている(図表1-12)。また、40歳以降に障害が発生した人も3割を超えており、障害が発生した年齢は多様であることが分かる。

図表 1-12 障害が発生した年齢



注)複数の障害がある場合は、最初に障害が発生した年齢を回答。

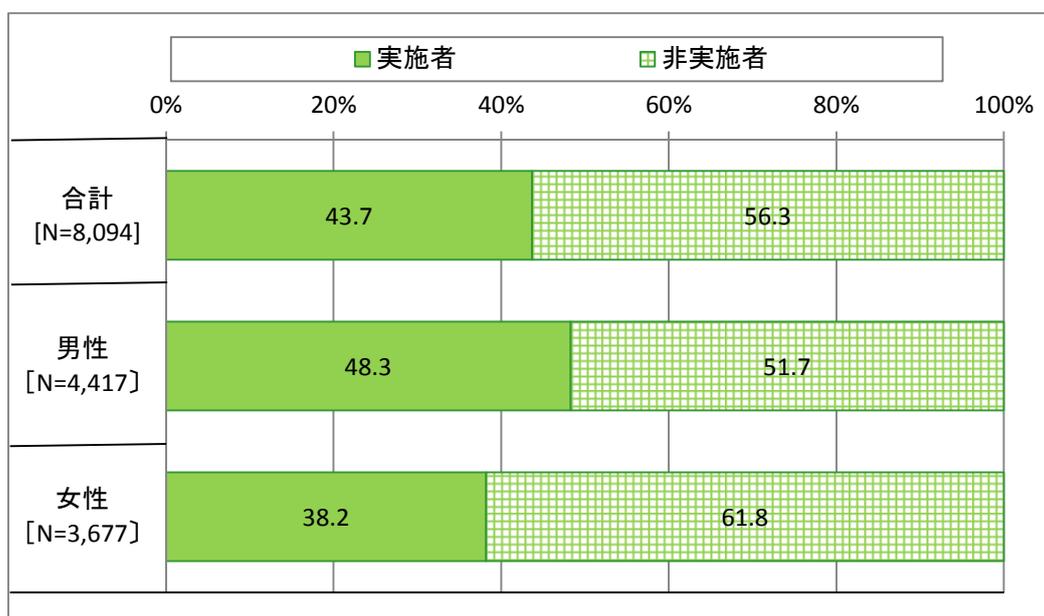
2. 2 スポーツ・レクリエーションの実施

(1) 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無

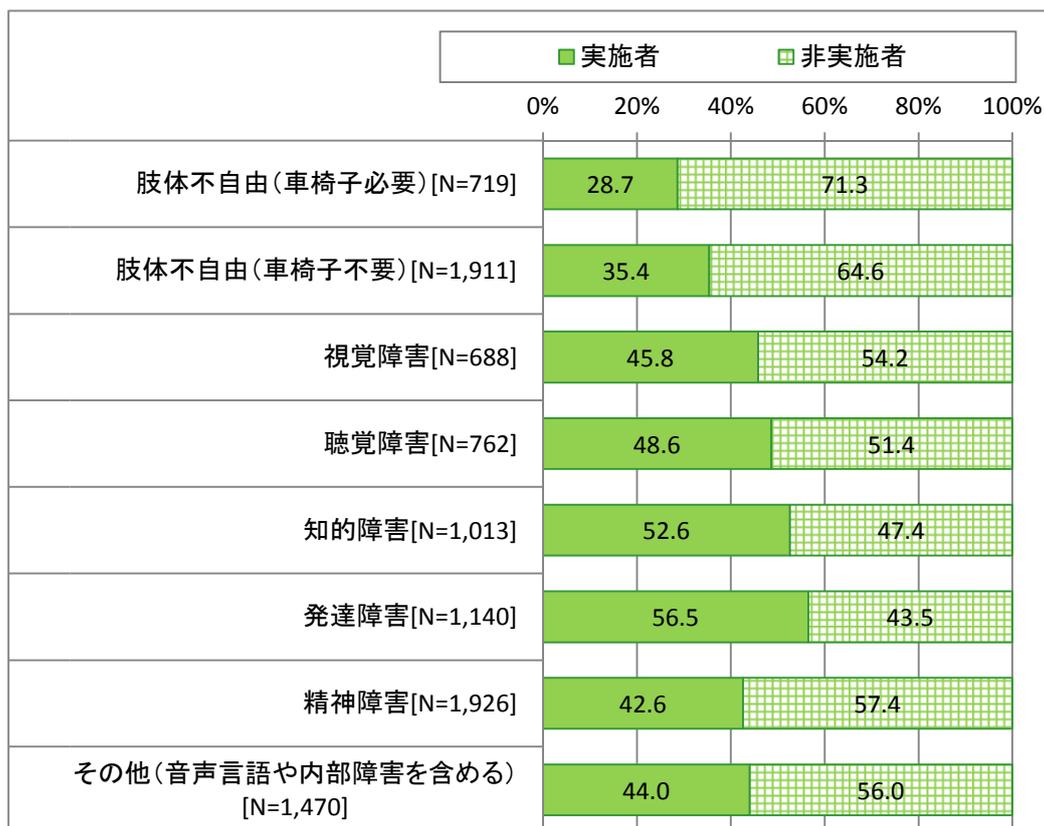
過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無について、実施者が43.7%であった(図表 1-13)。平成27年度調査の結果では、42.5%であった。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2016)によると、成人の年1回以上の運動・スポーツ実施者の割合は72.4%となっており、障害児・者のスポーツ実施率は一般に比べて低いことが分かる。

障害種別に見ると、肢体不自由(車椅子必要)(28.7%)、肢体不自由(車椅子不要)(35.4%)の実施率が低い一方で、発達障害(56.5%)、知的障害(52.6%)の実施率が高かった(図表 1-14)。全ての障害種において、女性より男性の実施率が高かった(図表 1-15)。

図表 1-13 過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無

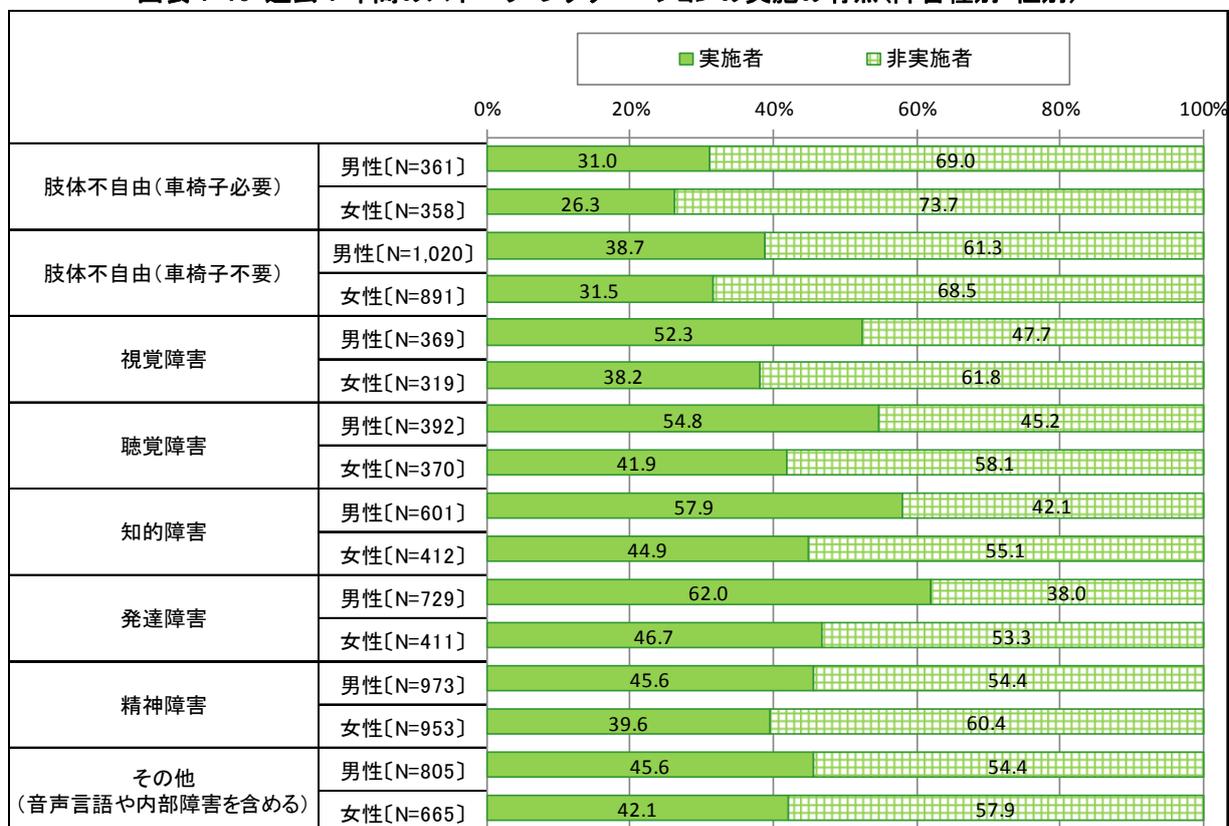


図表 1-14 過去 1 年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(障害種別)



注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

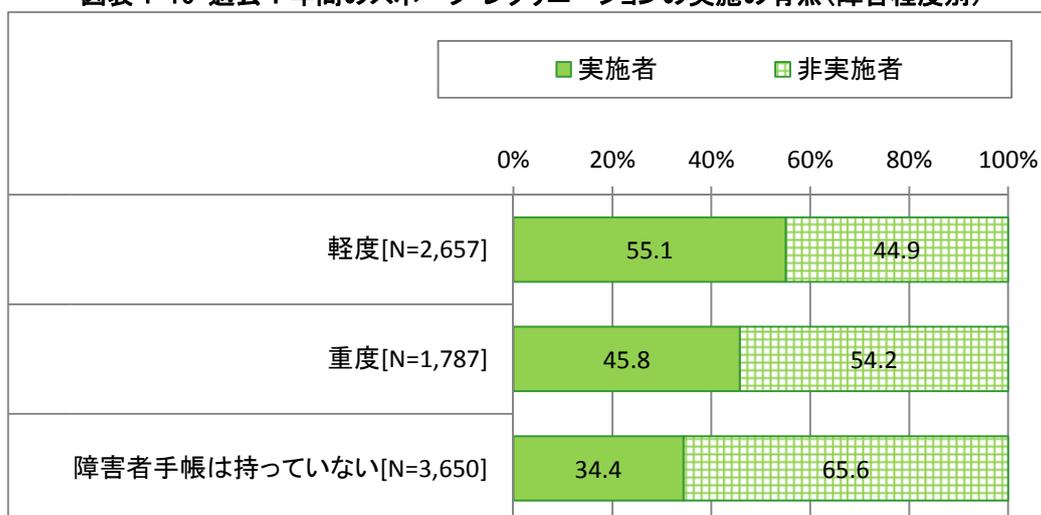
図表 1-15 過去 1 年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(障害種別・性別)



障害の程度別に見ると、軽度の障害児・者では、スポーツ・レクリエーションの実施者が非実施者を上

回るが、重度障害児・者や手帳を持っていない障害児・者では非実施者の割合が高かった(図表 1-16)。障害の程度にかかわらず、男性の実施者が女性の実施者を上回った(図表 1-17)。

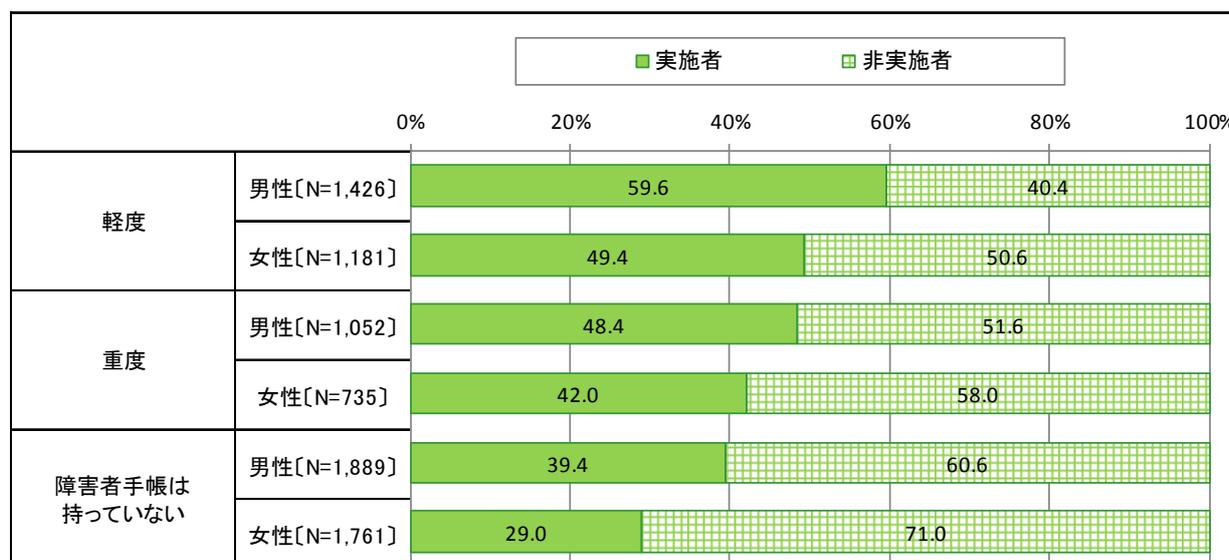
図表 1-16 過去 1 年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(障害程度別)



注) 重度/軽度の分類は以下のとおりである。

- ・重度: 身体障害者手帳 1 級、2 級、療育手帳マル A・A、精神障害者福祉保健手帳 1 級の保持者
- ・軽度: 上記以外の障害者手帳保持者

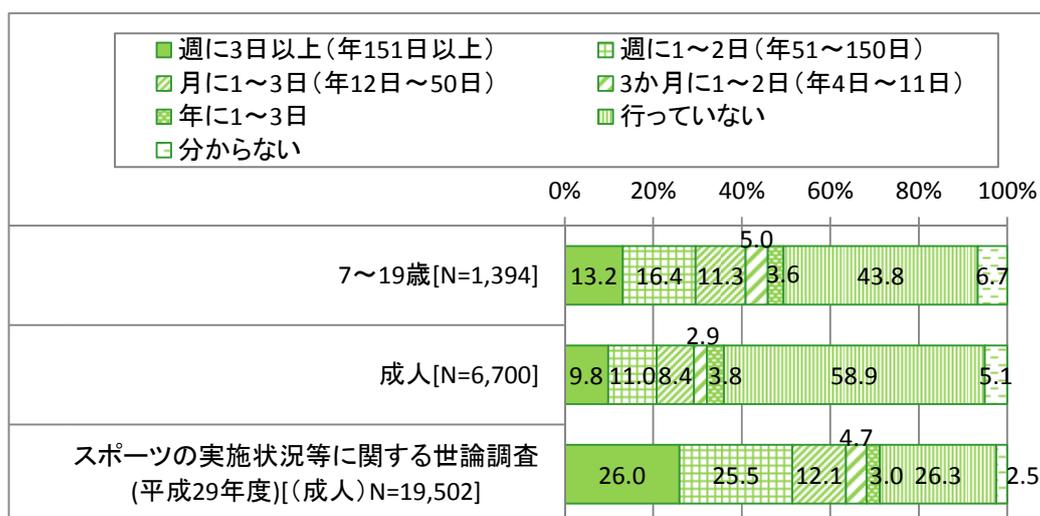
図表 1-17 過去 1 年間のスポーツ・レクリエーションの実施の有無(障害程度別・性別)



(2) 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数

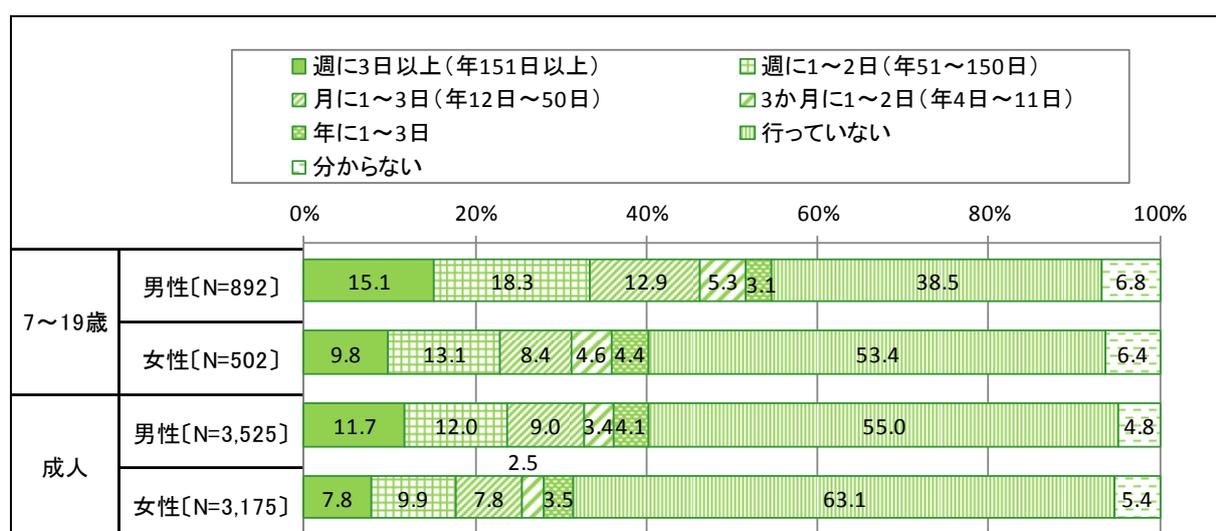
過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数について、7～19歳と成人に分けて集計した。7～19歳では、「週に3日以上」が13.2%、「週に1～2日」が16.4%と、週1日以上の実施者が29.6%であるのに対して、「行っていない」が約4割であった。成人では、「週に3日以上」と「週に1～2日」を合わせた週1日以上の実施者が20.8%、「行っていない」が約6割を占めた(図表1-18)。スポーツ庁が全国の18歳以上を対象に実施している「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(平成29年度)では、週1日以上の実施者は51.5%となっており、障害者のスポーツ実施頻度が低いことが分かる。また、平成27年度調査では、週1日以上の実施者は7～19歳が31.5%、成人が19.2%だった。年齢区分にかかわらず、週1日以上の実施者の割合は男性の割合が高かった(図表1-19)。

図表1-18 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数



注) スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(平成29年度):
全国18～79歳の男女が対象。

図表1-19 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(性別)



障害種別では、7～19歳では、発達障害の約4割が週1日以上スポーツ・レクリエーションを実施しているのに対して、肢体不自由(車椅子不要)では1割半ばだった。成人では、ほとんどの障害で約2割だったが、肢体不自由(車椅子必要)では約1割だった(図表1-20)。性別では、ほとんどの障害種別で男性の実施率が高かった(図表1-21)。

図表1-20 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数
(障害種別・年度別/7～19歳・成人別)(1/2)

(%)

		調査年度	週に3日以上 (年151日以上)	週に1～2日 (年51～150日)	月に1～3日 (年12～50日)	3か月に1～2日 (年4～11日)	年に1～3日	行っていない	分からない
全体	7-19歳[N=1,394]	2017	13.2	16.4	11.3	5.0	3.6	43.8	6.7
	7-19歳[N=950]	2015	14.0	17.5	10.8	4.7	4.3	41.9	6.7
	7-19歳[N=710]	2013	10.0	20.7	14.1	4.1	6.3	38.6	6.2
	成人[N=6,700]	2017	9.8	11.0	8.4	2.9	3.8	58.9	5.1
	成人[N=5,499]	2015	9.3	9.9	8.0	3.0	4.0	60.2	5.7
	成人[N=4,671]	2013	8.5	9.7	8.9	4.1	5.0	58.2	5.5
肢体不自由(車椅子必要)	7-19歳[N=72]	2017	6.9	12.5	11.1	5.6	5.6	58.3	0.0
	7-19歳[N=49]	2015	4.1	6.1	10.2	4.1	0.0	71.4	4.1
	7-19歳[N=58]	2013	3.4	8.6	19.0	1.7	5.2	55.2	6.9
	成人[N=647]	2017	5.9	6.5	6.5	3.2	2.2	72.8	2.9
	成人[N=606]	2015	5.4	4.8	6.8	1.3	1.7	76.7	3.3
	成人[N=572]	2013	6.1	5.9	4.9	3.7	3.8	72.2	3.3
肢体不自由(車椅子不要)	7-19歳[N=190]	2017	4.7	11.6	10.0	2.6	1.6	63.7	5.8
	7-19歳[N=108]	2015	11.1	9.3	5.6	0.9	0.9	67.6	4.6
	7-19歳[N=78]	2013	3.8	15.4	7.7	1.3	0.0	64.1	7.7
	成人[N=1,721]	2017	9.5	9.7	6.6	2.5	2.8	64.7	4.2
	成人[N=1,528]	2015	7.7	8.8	6.2	3.2	3.7	66.0	4.5
	成人[N=1,185]	2013	7.0	9.4	7.3	3.1	4.3	63.5	5.4
視覚障害	7-19歳[N=68]	2017	2.9	20.6	10.3	7.4	4.4	51.5	2.9
	7-19歳[N=35]	2015	17.1	25.7	2.9	2.9	5.7	42.9	2.9
	7-19歳[N=38]	2013	7.9	13.2	15.8	2.6	5.3	39.5	15.8
	成人[N=620]	2017	11.5	14.2	7.3	3.2	3.4	54.5	6.0
	成人[N=509]	2015	8.3	11.0	10.0	2.2	4.3	57.0	7.3
	成人[N=436]	2013	8.5	10.3	7.6	5.3	5.7	58.5	4.1
聴覚障害	7-19歳[N=90]	2017	20.0	10.0	15.6	6.7	5.6	33.3	8.9
	7-19歳[N=59]	2015	20.3	16.9	13.6	6.8	3.4	32.2	6.8
	7-19歳[N=60]	2013	15.0	18.3	21.7	5.0	3.3	31.7	5.0
	成人[N=672]	2017	11.0	12.2	11.3	2.2	4.0	53.9	5.4
	成人[N=566]	2015	11.0	11.1	8.1	4.4	2.8	55.3	7.2
	成人[N=445]	2013	9.0	13.5	11.0	6.5	5.6	48.1	6.3
知的障害	7-19歳[N=360]	2017	12.8	19.2	13.3	7.2	3.9	34.2	9.4
	7-19歳[N=292]	2015	11.3	20.2	14.0	6.5	3.1	37.0	7.9
	7-19歳[N=224]	2013	9.4	25.4	14.3	5.4	6.3	34.4	4.9
	成人[N=653]	2017	7.7	10.4	10.1	3.4	6.6	54.7	7.2
	成人[N=440]	2015	6.6	12.3	8.6	3.6	5.7	56.8	6.4
	成人[N=470]	2013	5.7	8.7	12.8	2.1	8.1	55.5	7.0

図表 1-20 過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数
(障害種別・年度別／7～19 歳・成人別) (2/2)

(%)

	調査年度	週に 3 日以上 (年 151 日以上)	週に 1 ～ 2 日 (年 51 ～ 150 日)	月に 1 ～ 3 日 (年 12 ～ 50 日)	3 か月に 1 ～ 2 日 (年 4 ～ 11 日)	年に 1 ～ 3 日	行っていない	分からない	
発達障害	7-19 歳[N=598]	2017	18.4	19.9	12.7	5.2	3.5	33.6	6.7
	7-19 歳[N=445]	2015	15.3	19.8	11.2	4.5	5.8	35.5	7.9
	7-19 歳[N=335]	2013	11.3	25.7	13.7	5.1	9.3	31.0	3.9
	成人[N=542]	2017	10.0	10.3	11.4	3.3	5.5	54.4	5.0
	成人[N=357]	2015	11.2	11.8	7.8	3.1	5.9	54.9	5.3
	成人[N=288]	2013	9.0	10.1	10.4	4.5	5.6	52.8	7.6
精神障害	7-19 歳[N=192]	2017	8.9	11.5	7.3	1.6	3.6	58.9	8.3
	7-19 歳[N=77]	2015	13.0	14.3	5.2	3.9	3.9	54.5	5.2
	7-19 歳[N=76]	2013	7.9	9.2	7.9	7.9	5.3	53.9	7.9
	成人[N=1,734]	2017	11.4	11.6	8.0	2.1	4.4	57.2	5.2
	成人[N=1,375]	2015	12.1	11.5	7.9	2.8	4.1	55.2	6.3
	成人[N=1,237]	2013	9.8	9.3	9.6	3.8	4.4	56.8	6.2
その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)	7-19 歳[N=155]	2017	9.0	13.5	15.5	8.4	5.2	41.9	6.5
	7-19 歳[N=91]	2015	11.0	11.0	11.0	7.7	5.5	51.6	2.2
	7-19 歳[N=80]	2013	5.0	17.5	17.5	3.8	6.3	42.5	7.5
	成人[N=1,315]	2017	10.7	11.3	8.2	3.6	3.1	57.6	5.5
	成人[N=1,037]	2015	10.9	10.3	8.2	2.9	3.7	58.8	5.2
	成人[N=912]	2013	8.8	9.3	8.1	3.2	4.4	62.4	3.8
スポーツの実施状況等に関する世論調査 (平成 29 年度)[(成人)N=19,502]	2018	26.0	25.5	12.1	4.7	3.0	26.3	2.5	
東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査(平成 27 年 6 月)[N=1,873]	2015	19.6	20.8	21.1	9.1	6.2	22.6	0.6	
体力・スポーツに関する世論調査 (平成 25 年 1 月)[N=1,897]	2013	24.4	23.1	18.3	8.1	5.8	19.1	1.1	

注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(平成 29 年度調査): 全国 18～79 歳の男女が対象。

注 3) 2013 年度データ: 笹川スポーツ財団「健常者と障害者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障害者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)」(平成 26 年 3 月)より。

注 4) 2015 年度データ: 笹川スポーツ財団「地域における障害者スポーツ普及促進事業(障害者のスポーツ参加促進に関する調査研究)」(平成 28 年 3 月)より。

注 5) 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査(平成 25 年 1 月): 全国 20 歳以上の日本国籍を有する者が対象。

図表 1-21 過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数
(障害種別・性別/7~19 歳・成人別)

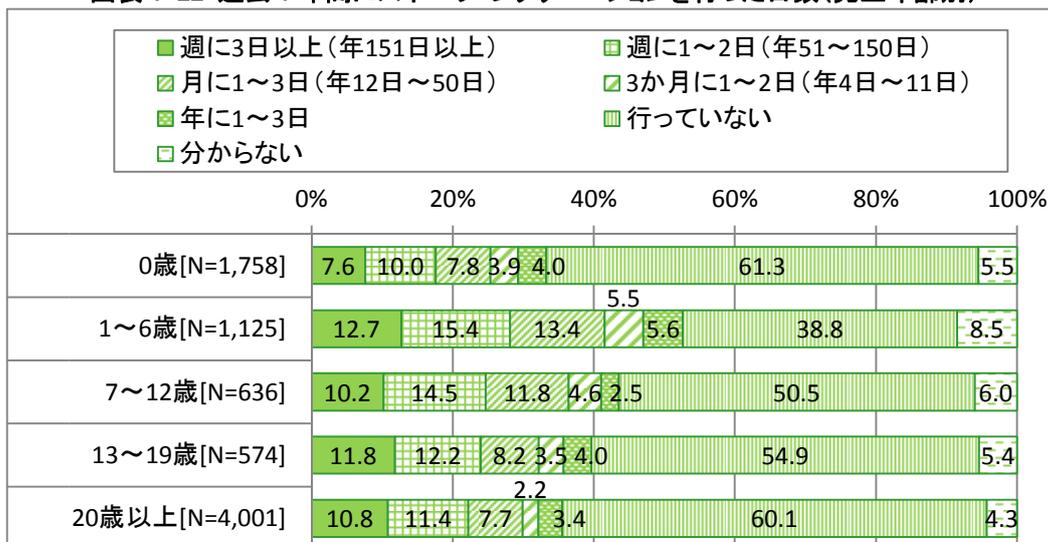
(%)

		性別	(年 1 5 1 日 以上)	(年 5 週 に 1 5 日)	(年 1 月 に 2 5 日)	(年 3 か 月 に 4 1 日)	年 に 1 5 3 日	行 っ て い な い	分 か ら な い
			(年 1 5 1 日 以上)	(年 5 週 に 1 5 日)	(年 1 月 に 2 5 日)	(年 3 か 月 に 4 1 日)			
全体	7-19歳	合計[N=1,394]	13.2	16.4	11.3	5.0	3.6	43.8	6.7
		男性[N=892]	15.1	18.3	12.9	5.3	3.1	38.5	6.8
		女性[N=502]	9.8	13.1	8.4	4.6	4.4	53.4	6.4
	成人	合計[N=6,700]	9.8	11.0	8.4	2.9	3.8	58.9	5.1
		男性[N=3,525]	11.7	12.0	9.0	3.4	4.1	55.0	4.8
		女性[N=3,175]	7.8	9.9	7.8	2.5	3.5	63.1	5.4
肢体不自由 (日常生活で車椅子を必要とする)	7-19歳	合計[N=72]	6.9	12.5	11.1	5.6	5.6	58.3	0.0
		男性[N=42]	9.5	11.9	7.1	4.8	2.4	64.3	0.0
		女性[N=30]	3.3	13.3	16.7	6.7	10.0	50.0	0.0
	成人	合計[N=647]	5.9	6.5	6.5	3.2	2.2	72.8	2.9
		男性[N=319]	6.6	7.5	6.6	3.8	1.9	69.6	4.1
		女性[N=328]	5.2	5.5	6.4	2.7	2.4	75.9	1.8
肢体不自由 (日常生活で車椅子を必要としない)	7-19歳	合計[N=190]	4.7	11.6	10.0	2.6	1.6	63.7	5.8
		男性[N=105]	7.6	10.5	12.4	1.9	1.0	61.0	5.7
		女性[N=85]	1.2	12.9	7.1	3.5	2.4	67.1	5.9
	成人	合計[N=1,721]	9.5	9.7	6.6	2.5	2.8	64.7	4.2
		男性[N=915]	10.8	10.3	6.8	3.2	3.4	61.3	4.3
		女性[N=806]	7.9	9.1	6.3	1.7	2.2	68.6	4.1
視覚障害	7-19歳	合計[N=68]	2.9	20.6	10.3	7.4	4.4	51.5	2.9
		男性[N=41]	2.4	29.3	12.2	4.9	7.3	41.5	2.4
		女性[N=27]	3.7	7.4	7.4	11.1	0.0	66.7	3.7
	成人	合計[N=620]	11.5	14.2	7.3	3.2	3.4	54.5	6.0
		男性[N=328]	14.0	17.7	7.6	3.0	4.0	48.5	5.2
		女性[N=292]	8.6	10.3	6.8	3.4	2.7	61.3	6.8
聴覚障害	7-19歳	合計[N=90]	20.0	10.0	15.6	6.7	5.6	33.3	8.9
		男性[N=49]	18.4	12.2	18.4	8.2	4.1	34.7	4.1
		女性[N=41]	22.0	7.3	12.2	4.9	7.3	31.7	14.6
	成人	合計[N=672]	11.0	12.2	11.3	2.2	4.0	53.9	5.4
		男性[N=343]	14.3	14.0	12.0	2.6	4.7	46.6	5.8
		女性[N=329]	7.6	10.3	10.6	1.8	3.3	61.4	4.9
知的障害	7-19歳	合計[N=360]	12.8	19.2	13.3	7.2	3.9	34.2	9.4
		男性[N=253]	13.0	18.6	13.8	7.9	3.2	32.8	10.7
		女性[N=107]	12.1	20.6	12.1	5.6	5.6	37.4	6.5
	成人	合計[N=653]	7.7	10.4	10.1	3.4	6.6	54.7	7.2
		男性[N=348]	8.3	12.1	12.9	4.0	6.0	48.9	7.8
		女性[N=305]	6.9	8.5	6.9	2.6	7.2	61.3	6.6
発達障害	7-19歳	合計[N=598]	18.4	19.9	12.7	5.2	3.5	33.6	6.7
		男性[N=436]	20.9	21.6	13.5	4.6	3.2	29.4	6.9
		女性[N=162]	11.7	15.4	10.5	6.8	4.3	45.1	6.2
	成人	合計[N=542]	10.0	10.3	11.4	3.3	5.5	54.4	5.0
		男性[N=293]	10.6	13.0	12.3	3.4	5.8	50.9	4.1
		女性[N=249]	9.2	7.2	10.4	3.2	5.2	58.6	6.0
精神障害	7-19歳	合計[N=192]	8.9	11.5	7.3	1.6	3.6	58.9	8.3
		男性[N=105]	9.5	13.3	11.4	1.9	1.9	51.4	10.5
		女性[N=87]	8.0	9.2	2.3	1.1	5.7	67.8	5.7
	成人	合計[N=1,734]	11.4	11.6	8.0	2.1	4.4	57.2	5.2
		男性[N=868]	13.9	11.9	8.8	2.3	3.9	54.7	4.5
		女性[N=866]	8.9	11.3	7.3	1.8	5.0	59.7	6.0
その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)	7-19歳	合計[N=155]	9.0	13.5	15.5	8.4	5.2	41.9	6.5
		男性[N=94]	8.5	14.9	11.7	10.6	6.4	42.6	5.3
		女性[N=61]	9.8	11.5	21.3	4.9	3.3	41.0	8.2
	成人	合計[N=1,315]	10.7	11.3	8.2	3.6	3.1	57.6	5.5
		男性[N=711]	13.4	11.3	7.3	3.5	3.7	56.0	4.9
		女性[N=604]	7.6	11.3	9.3	3.6	2.5	59.6	6.1
スポーツの実施状況等に関する世論調査(平成29年度)	成人	合計[N=19,502]	26.0	25.5	12.1	4.7	3.0	26.3	2.5
		男性[N=9,686]	26.9	26.1	13.3	4.6	3.0	24.1	1.9
		女性[N=9,816]	25.1	24.9	10.8	4.7	3.1	28.4	3.1

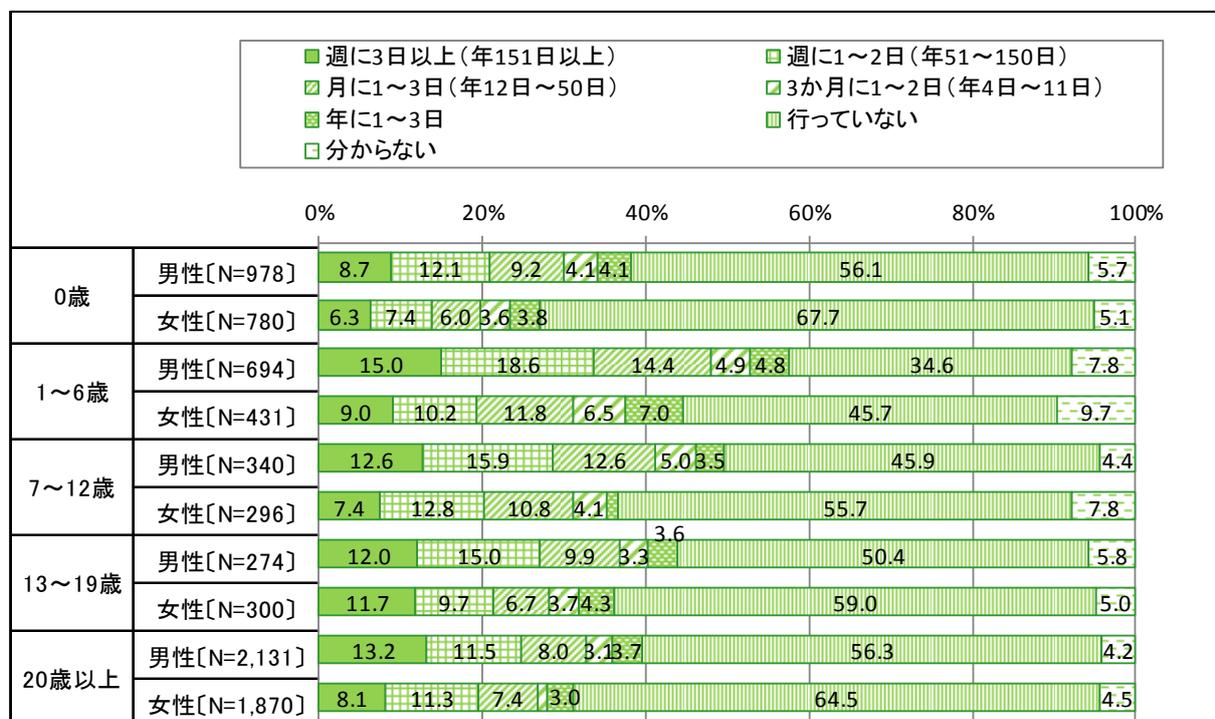
発生年齢別に見ると、週1日以上の実施者は「1～6歳」で28.1%、「7～12歳」では24.7%で、「0歳」をのぞくと、発生年齢が低いほど、実施率が高いことが分かる(図表1-22)。性別では男性の割合が高かった(図表1-23)。

年収別に見ると、週1日以上の実施者は「600万円未満」では2割半ば、600～800万円未満では約3割、800万円以上では3割を超えていた。年収が多くなるにつれて、スポーツ・レクリエーションを実施している割合は大きくなる(図表1-24)。性別では男性の割合が高かった(図表1-25)。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2012)では、世帯年収と運動・スポーツの実施には有意な関係が認められ、世帯年収が高いほど、積極的にスポーツを実施していると判定しており、一般と同様の結果となった。

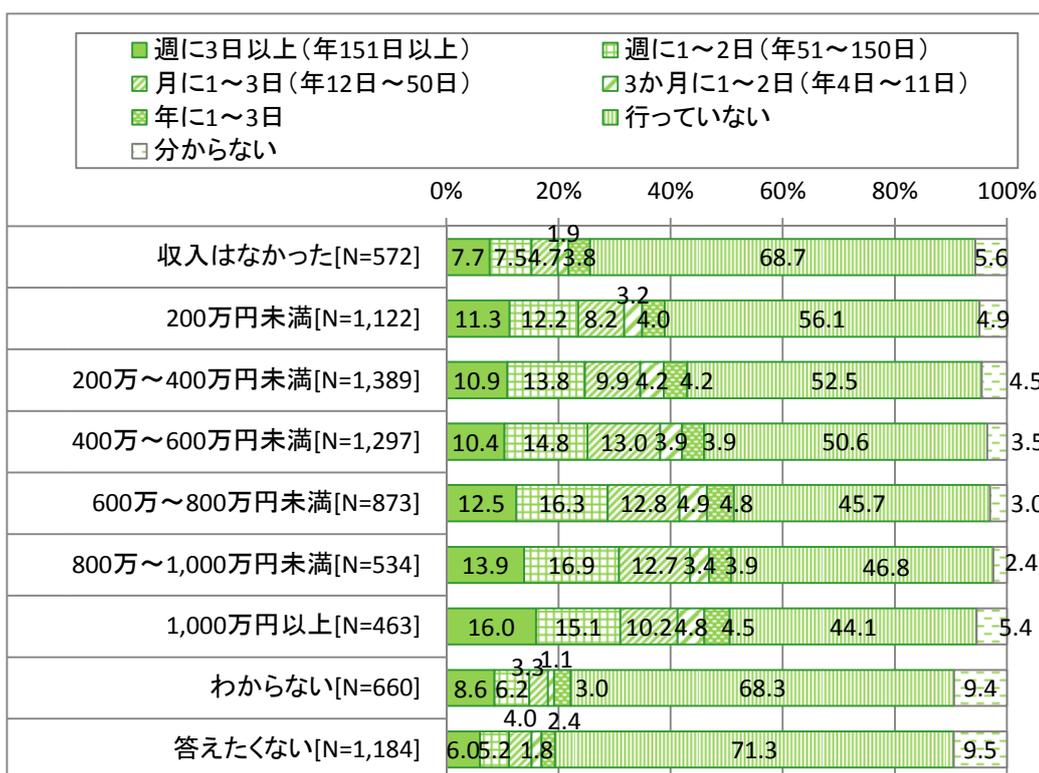
図表 1-22 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(発生年齢別)



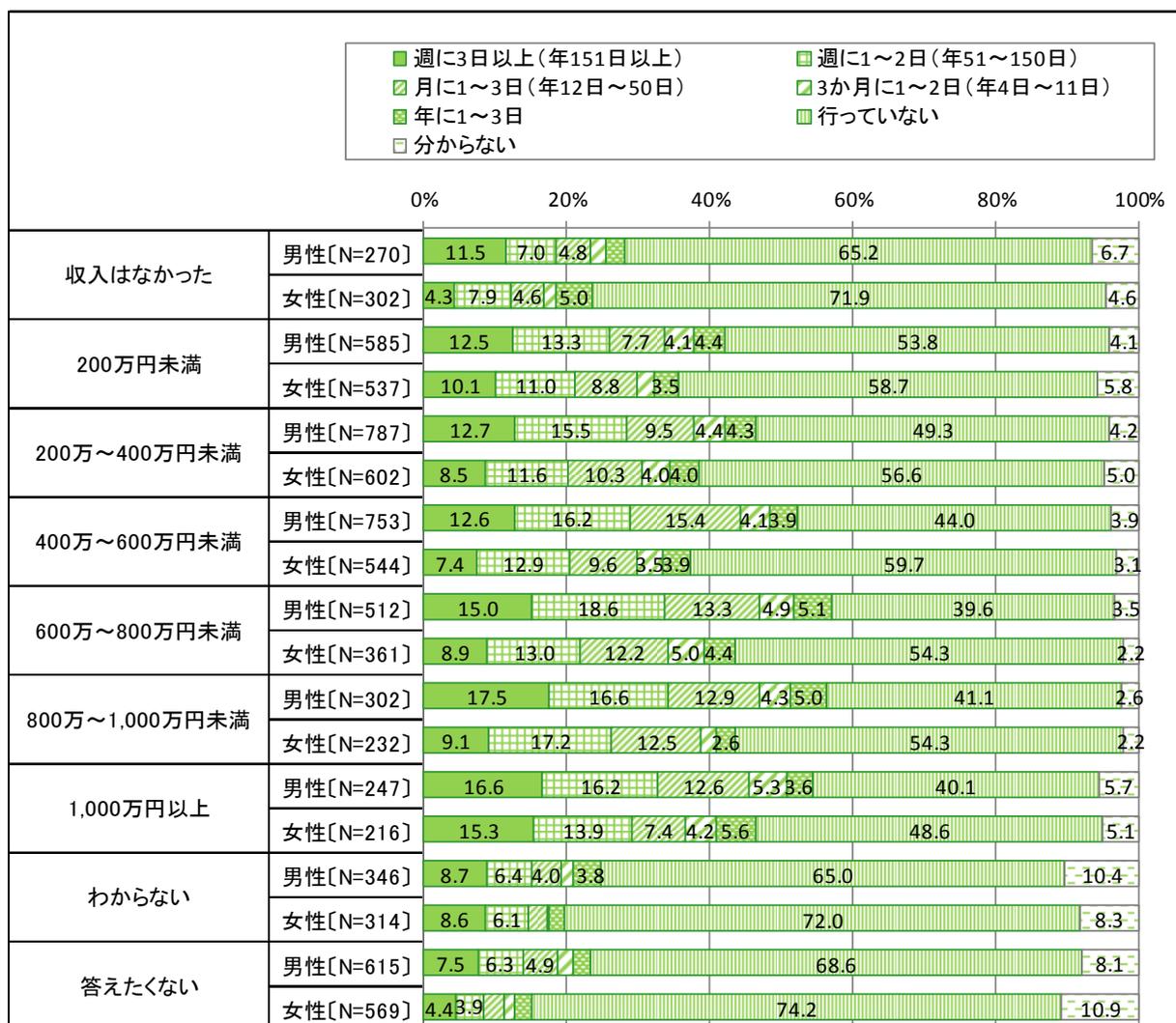
図表 1-23 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(発生年齢別・性別)



図表 1-24 過去1年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(年収別)



図表 1-25 過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを行った日数(年収別・性別)



以下の(3)～(7)の項目は、過去 1 年間に何らかのスポーツ・レクリエーションを行った 8,094 人を対象に調査を実施。

(3) 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション

過去 1 年間にスポーツ・レクリエーションを「行った」と回答した人が、どのようなスポーツ・レクリエーションを行ったかについて、障害種別に上位種目と一人当たりの平均実施種目数をまとめた。7～19 歳では、「水泳」「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」、成人では、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「水泳」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」の実施率が高かった。「水泳」は、7～19 歳では、ほとんどの障害で最も実施率の高い種目となっている(図表 1-26、図表 1-27、図表 1-28)。水泳は、指導方法やアプローチ方法に多様性があるが、指導者、サポートが充実している学齢期には積極的に実施される。卒業後は、指導者やサポート体制が充実した環境を見つけることが難しく、成人では一人で実施できる「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」の実施が増える傾向にある。一人当たりの平均実施種目数については、障害による違いが見られる。全体では発達障害が 2.3 種目と最も多い。

発生年齢別に見ると、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」が上位を占める中で、「20 歳以上」になると、筋力トレーニングやゴルフが入ってくる(図表 1-29)。

図表 1-26 過去 1 年間にいったスポーツ・レクリエーション(障害種別・全体:N=3,538) (複数回答)

(%)

	(車椅子不自由)		(車椅子不自由)		視覚障害		聴覚障害		知的障害		発達障害		精神障害		内その他(言葉を含める語)	
	N=206	N=876	N=315	N=370	N=533	N=644	N=821	N=647								
1位	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)	散歩(ぶらぶら歩き)
2位	キャッチボール	ウォーキング	ウォーキング	ウォーキング	水泳	ウォーキング										
3位	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳	水泳
4位	野球	水中歩行	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)													
5位	ウォーキング	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	9.5	9.5	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9	9.9
6位	ソフトボール	筋力トレーニング(マ シントレーニング)	6.7	6.7	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9	8.9
7位	ポッチャ	ハイキング	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5
8位	体操(軽い体操、ラジ オ体操など)	釣り	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3
9位	ゴルフ(コース)	筋力トレーニング(ダ ンベル・自重のトレ ーニング)	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3	5.3
10位	ふうせんハレー	サイクリング	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2	5.2
11位	ゴルフ(練習場)	野球	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4
12位	釣り	ゴルフ(コース)	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9
13位	水中歩行	ゴルフ(練習場)	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
14位	筋力トレーニング(マ シントレーニング)	ジョギング・ランニング	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4	3.4
15位	ジョギング・ランニング	キャッチボール	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3
	海水浴	ソフトボール														
	グラウンド・ゴルフ															
	柔道															
平均実施項目数	1.7	2.2	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.7	3.3	2.8	2.3				

注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

図表 1-28 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(障害種別・成人: N=2,755) (複数回答) (%)

	N=176		N=607		N=282		N=310		N=286		N=247		N=742		N=557		N=3,000		N=20,000		
	(車椅子 身体不 自由要 求)																				
1位	13.6	38.9	36.5	36.8	39.5	41.3	43.0	40.8	41.3	43.0	41.3	43.0	40.8	41.3	43.0	40.8	41.3	43.0	40.8	41.3	38.7
2位	10.2	28.3	28.7	28.1	24.3	28.7	36.1	28.7	28.7	36.1	28.7	36.1	28.7	36.1	28.7	28.2	36.1	28.7	28.2	36.1	15.0
3位	9.1	10.9	9.9	11.6	18.9	13.4	14.0	13.4	13.4	14.0	13.4	14.0	13.4	14.0	13.4	11.5	14.0	13.4	11.5	14.0	14.0
4位		10.7	9.6	9.4	14.2	12.6	11.1	12.6	12.6	11.1	12.6	11.1	12.6	11.1	9.0	13.7	11.1	13.7	9.0	13.7	10.4
5位		10.0	8.2	8.1	10.1	12.1	10.8	12.1	12.1	10.8	12.1	10.8	12.1	10.8	8.1	9.5	10.8	9.5	8.1	9.5	8.8
6位	8.5	7.4	7.8	7.7	6.4	8.9	8.5	8.9	8.9	8.5	8.9	8.5	8.9	8.5	6.1	8.9	8.5	6.1	8.9	7.7	7.7
7位		8.0	6.4	7.4	6.1	8.1	8.4	8.1	8.1	8.4	8.1	8.4	8.1	8.4	5.6	7.4	8.4	5.6	7.4	6.7	6.7
8位		7.4	6.0	6.8	5.7	7.7	8.0	7.7	7.7	8.0	7.7	8.0	7.7	8.0	5.4	7.4	8.0	5.4	7.4	6.4	6.4
9位		6.6	5.7	6.5	5.4	6.5	7.4	7.3	7.3	7.4	7.3	7.4	7.3	7.4	5.2	7.0	7.4	5.2	7.0	5.5	5.5
10位		5.7	5.7	5.7	5.4	5.7	6.9	6.9	6.9	5.4	6.9	5.4	6.9	5.4	5.2	6.8	5.4	5.2	6.8	5.4	5.4
11位		5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	5.1	4.8	4.8
12位		5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	5.4	4.6	4.6
13位		4.0	4.9	5.3	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.9	4.7	5.6	4.9	4.7	5.6	4.3	4.3
14位		4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.1	4.1
15位		4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1
平均実施項目数	1.6	2.2	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.4	2.2	2.7	2.2	2.7	2.2	-	-

注1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注2) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2016):成人を対象とした全国調査。

注3) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2016):非実施者を含めた実施割合である。

図表 1-29 過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(発生前年齢別)

(%)

	0歳		1~19歳		20歳以上	
	N=681		N=1,262		N=1,595	
1位	散歩(ぶらぶら歩き)	34.9	散歩(ぶらぶら歩き)	25.6	散歩(ぶらぶら歩き)	42.3
2位	水泳	25.0	ウォーキング	19.6	ウォーキング	33.5
3位	ウォーキング	21.3	水泳	19.1	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	12.5
4位	ジョギング・ランニング	11.6	ジョギング・ランニング	10.0	水泳	10.2
5位	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	11.5	サッカー	9.6	水中歩行	9.0
6位	サッカー	9.5	キャッチボール	9.4	筋カトレーニング(マシントレーニング)	7.5
7位	海水浴	7.9	なわとび	9.3	ジョギング・ランニング	6.8
8位	ボウリング	7.2	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	9.0	筋カトレーニング(ダンベル・自重のトレーニング)	6.6
9位	卓球		野球	7.4	ハイキング	5.5
10位	なわとび		海水浴	7.1	ヨーガ	5.4
11位	キャッチボール	6.9	バスケットボール	6.6	キャッチボール	5.3
12位	ハイキング	6.2	ボウリング	6.4	サイクリング	5.1
13位	野球	6.0	バドミントン	5.9	釣り	
14位	スキー	5.4	ソフトボール		ゴルフ(コース)	
15位	釣り	5.3	サイクリング	5.7	卓球	4.5
	バスケットボール				ゴルフ(練習場)	
平均実施項目数	2.8		2.8		2.3	

(4) スポーツ・レクリエーションの実施回数

過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション種目の年平均実施回数を尋ねたところ、「筋力トレーニング(ダンベル・自重のトレーニング)」「ウォーキング」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」「散歩(ぶらぶら歩き)」「筋力トレーニング(マシントレーニング)」「ソフトテニス(軟式テニス)」が多かった(図表 1-30)。

障害種別に見ると、全障害で「筋力トレーニング(ダンベル・自重のトレーニング)」「体操(軽い体操、ラジオ体操など)」「ウォーキング」「散歩(ぶらぶら歩き)」の年平均実施回数が多く、特に肢体不自由(車椅子不要)、視覚障害、聴覚障害では「筋力トレーニング」、精神障害では、「体操」が多かった。(図表 1-31)。

図表 1-30 スポーツ・レクリエーション種目(実施率上位 30 種目)の年平均実施回数
(回)

種目名	年平均実施回数
筋力トレーニング(ダンベル・自重のトレーニング)[N=128]	138.3
ウォーキング[N=779]	123.6
体操(軽い体操、ラジオ体操など)[N=328]	123.6
散歩(ぶらぶら歩き)[N=1,054]	118.9
筋力トレーニング(マシントレーニング)[N=159]	98.7
ソフトテニス(軟式テニス)[N=49]	85.1
ラグビー[N=8]	83.0
ジョギング・ランニング[N=259]	82.7
サイクリング[N=157]	77.4
ヨガ[N=125]	76.4
陸上競技[N=48]	69.0
バスケットボール[N=100]	68.1
エアロビックダンス[N=25]	63.4
ダンス(社交ダンス、フォークダンス、フラダンスなど)[N=78]	55.6
空手[N=48]	54.8
水中歩行[N=189]	54.0
アクアエクササイズ[N=18]	50.9
バレーボール[N=66]	50.4
サッカー[N=178]	48.6
太極拳[N=35]	47.3
卓球[N=149]	45.9
フットベースボール(キックベースボール)[N=19]	44.1
なわとび[N=145]	44.0
バドミントン[N=109]	42.6
ゴルフ(練習場)[N=113]	42.1
ドッジボール[N=80]	39.9
水泳[N=517]	34.2
野球[N=170]	34.1
車いすバスケットボール[N=12]	31.8
柔道[N=48]	31.7

図表 1-31 スポーツ・レクリエーション種目(実施率上位種目)の年平均実施回数(障害種別・全体・N=3,538) (回)

順位	種目	(車椅子不自由)		(車椅子不自由)		視覚障害		聴覚障害		知的障害		発達障害		精神障害		その他(音声言語を含む)	
		N=206	N=876	N=315	N=876	N=370	N=533	N=644	N=821	N=647							
1位	散歩(ふらふら歩き)	103.1	134.6	125.3	125.3	118.8	110.5	101.7	120.0	124.2							
2位	キャッチボール	16.1	133.1	121.2	121.2	139.4	27.4	31.8	126.4	117.7							
3位	水泳	32.5	42.1	35.5	35.5	27.5	107.5	114.8	150.3	141.2							
4位	野球	29.9	66.3	106.7	106.7	102.0	105.6	43.5	39.7	24.1							
5位	ウォーキング	123.6	125.2	24.2	24.2	21.3	87.2	79.2	93.6	36.3							
6位	ソフトボール	21.9	105.9	69.0	69.0	101.6	2.0	95.9	26.4	32.0							
7位	ボッチャ	22.2	8.5	19.8	19.8	36.8	30.8	74.9	141.3	11.7							
8位	体操(軽い体操、ラジオ体操など)	147.8	8.8	26.8	26.8	20.2	6.7	3.6	101.7	70.6							
9位	ゴルフ(コース)	50.3	162.7	144.4	144.4	3.8	31.8	43.6	58.4	75.4							
10位	ふうせんハレー	20.8	56.1	10.2	10.2	55.8	79.8	8.2	92.6	14.3							
11位	ゴルフ(練習場)	125.4	31.0	56.6	56.6	7.5	5.7	49.7	91.3	99.4							
12位	釣り	20.4	16.0	14.3	14.3	74.6	25.9	43.1	39.2	6.5							
13位	水中歩行	87.4	43.0	2.1	2.1	17.6	44.5	62.3	8.6	9.9							
14位	筋力トレーニング(マシントレーニング)	142.9	72.4	5.7	5.7	16.7	5.7	76.2	16.7	39.3							
15位	ジョギング・ランニング	124.0	22.6	112.5	112.5	36.1	55.2	2.4	9.7	143.7							
	海水浴	1.6	47.4			39.6											
	グラウンド・ゴルフ	39.7															
	柔道	6.7															
平均実施項目数		1.7	2.2	2.5	2.5	2.5	2.7	3.3	2.8	2.3							

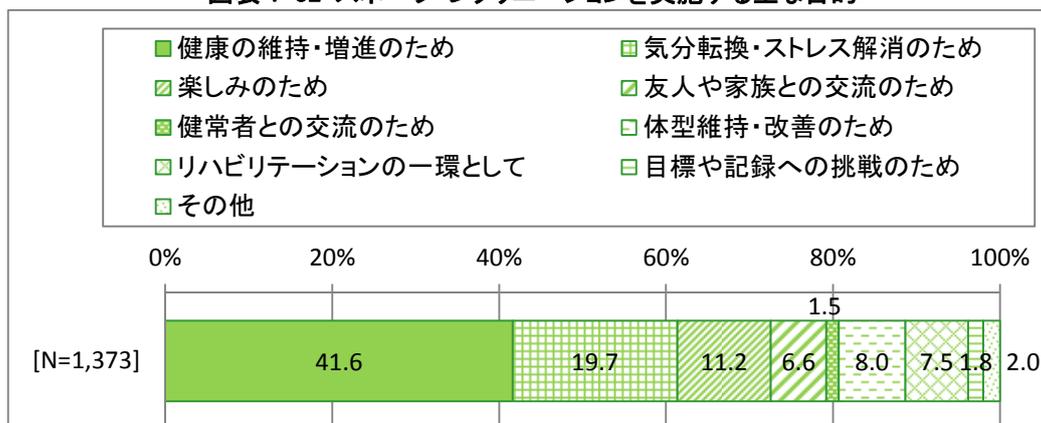
注)車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

(5) スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的

スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的については、「健康の維持・増進のため」(41.6%)が最も多く、次いで「気分転換・ストレス解消のため」(19.7%)、「楽しみのため」(11.2%)であった(図表 1-32)。スポーツ庁「スポーツの実施状況等に関する世論調査」(平成 28 年 11 月)では、「健康のため」「体力増進・維持のため」「楽しみ、気晴らしとして」との回答が多く、本調査と同様の傾向を示した。

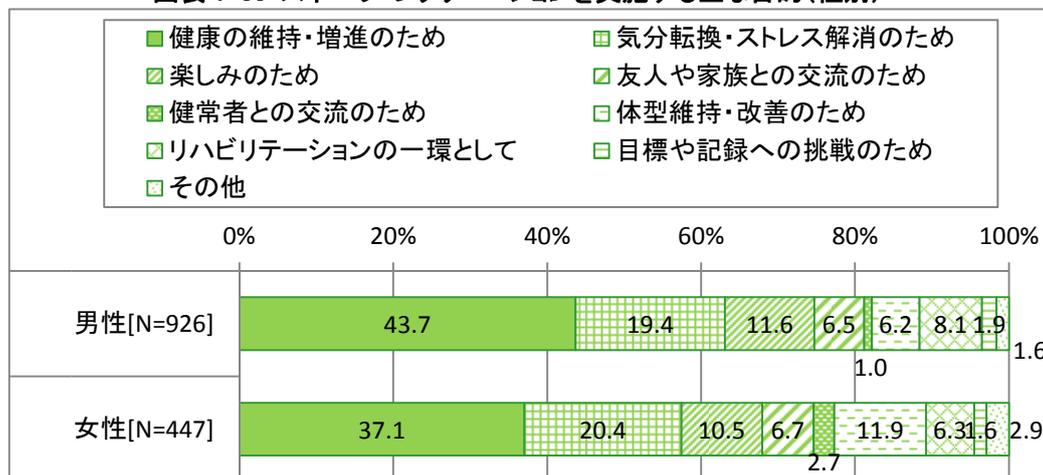
性別に見ると、「健康維持・増進のため」が男性で高く、「体型維持・改善のため」が女性で高くなった(図表 1-33)。障害種別で見ると、肢体不自由では、「リハビリテーションの一環として」が1割以上を占め、知的障害では「目標や記録への挑戦のため」が 10.9%と、ほかの障害と比べて高かった(図表 1-34)。肢体不自由(車椅子必要)では、「健康の維持・増進のため」が 31.3%と、ほかの障害と比べて低かった。

図表 1-32 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 1-33 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的(性別)



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 1-34 スポーツ・レクリエーションを実施する主な目的(障害種別)

(%)

		調査年度	健康の維持・増進のため	気分転換・ストレス解消のため	楽しむため	友人や家族との交流のため	健常者との交流のため	体型維持・改善のため	リハビリテーションの一環として	目標や記録への挑戦のため	その他
肢体不自由 (車椅子必要)	N=67	2017	31.3	23.9	14.9	4.5	6.0	1.5	14.9	3.0	0.0
	N=51	2015	31.4	21.6	13.7	5.9	2.0	2.0	19.6	3.9	0.0
	N=61	2013	26.2	13.1	18.0	8.2	3.3	4.9	21.3	4.9	0.0
肢体不自由 (車椅子不要)	N=308	2017	43.8	14.3	8.8	5.5	1.9	3.9	17.2	1.9	2.6
	N=266	2015	33.8	17.3	7.5	7.1	1.1	5.6	24.8	1.9	0.8
	N=273	2013	36.7	16.5	11.0	6.8	0.4	3.0	22.8	2.1	0.8
視覚障害	N=128	2017	47.7	13.3	10.9	11.7	0.8	5.5	6.3	3.1	0.8
	N=114	2015	34.2	28.9	9.6	8.8	1.8	6.1	7.9	1.8	0.9
	N=92	2013	38.0	23.9	10.9	8.7	0.0	6.5	7.6	3.3	1.1
聴覚障害	N=133	2017	48.9	18.0	13.5	7.5	0.8	6.8	2.3	1.5	0.8
	N=117	2015	39.3	21.4	16.2	4.3	1.7	3.4	7.7	5.1	0.9
	N=110	2013	36.4	29.1	15.5	7.3	0.0	6.4	1.8	3.6	0.0
知的障害	N=64	2017	42.2	28.1	3.1	6.3	0.0	4.7	1.6	10.9	3.1
	N=18	2015	33.3	27.8	16.7	0.0	11.1	5.6	0.0	5.6	0.0
	N=13	2013	30.8	15.4	15.4	0.0	7.7	7.7	7.7	15.4	0.0
発達障害	N=128	2017	39.1	25.8	13.3	5.5	1.6	9.4	2.3	0.8	2.3
	N=82	2015	35.4	22.0	15.9	3.7	1.2	7.3	12.2	2.4	0.0
	N=46	2013	45.7	26.1	4.3	6.5	0.0	4.3	8.7	4.3	0.0
精神障害	N=475	2017	37.7	22.7	10.5	5.9	0.6	11.8	6.5	1.3	2.9
	N=411	2015	39.7	28.7	6.1	4.4	0.2	9.7	8.5	1.7	1.0
	N=322	2013	34.2	30.7	8.1	5.6	1.2	9.0	8.4	1.6	1.2
その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)	N=272	2017	39.7	17.6	11.4	6.3	2.2	9.2	9.2	2.2	2.2
	N=227	2015	39.6	22.0	11.5	9.7	1.3	2.6	9.3	2.6	1.3
	N=186	2013	39.2	21.0	11.8	6.5	1.1	3.8	14.0	1.1	1.6

注 1)車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2)スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

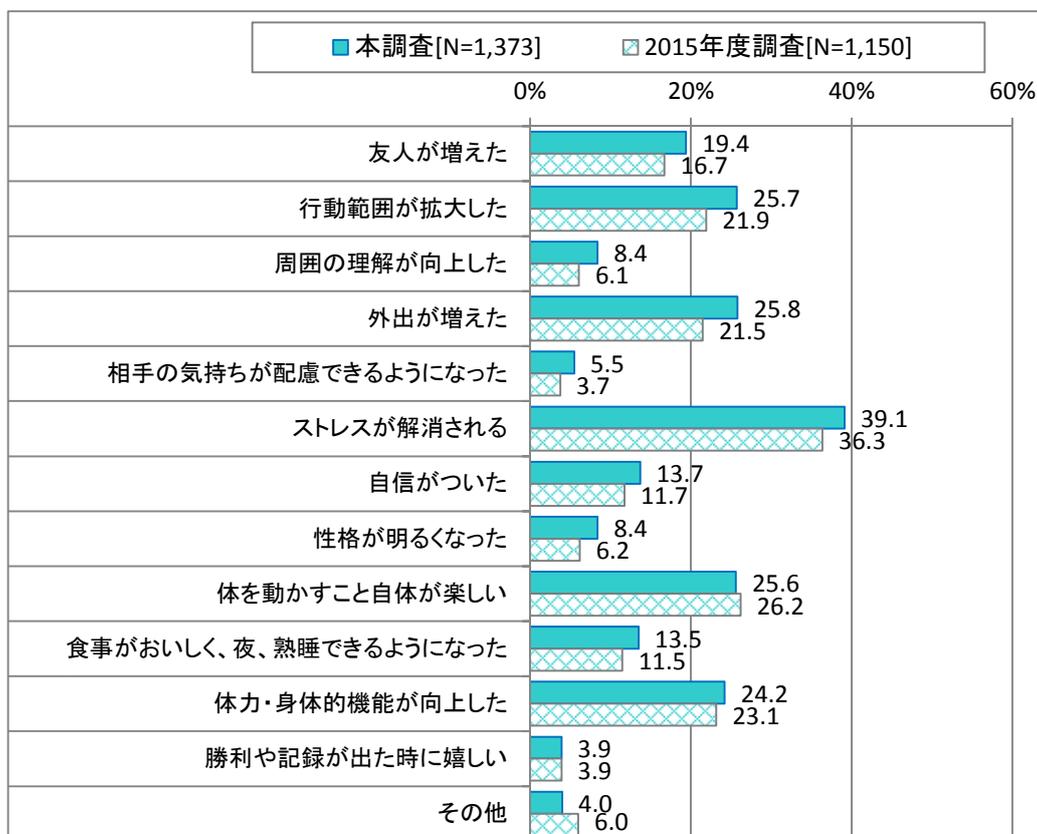
(6) スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと

スポーツ・レクリエーションをやってよかったことについては、「ストレスが解消される」(39.1%)が最も多く、次いで「外出が増えた」(25.8%)、「行動範囲が拡大した」(25.7%)、「体を動かすこと自体が楽しい」(25.6%)であった(図表 1-35)。

障害種別に見ると、「肢体不自由(車椅子必要)」では「友人が増えた」、その他の障害では「ストレスが解消される」が高かった(図表 1-36)。

また、障害の程度を重度に絞り、障害種別に見ると、肢体不自由(車椅子必要)、発達障害、精神障害、では「友人が増えた」、肢体不自由(車椅子不要)、聴覚障害では「行動範囲が拡大した」、視覚障害、知的障害では「ストレスが解消される」の割合が高くなり、障害の程度による違いが見られた(図表 1-37)。

図表 1-35 スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと(複数回答)



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者の場合に限定した。

図表 1-36 スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと(障害種別)

(%)

	調査年度	友人が増えた	行動範囲が拡大した	周囲の理解が向上した	外出が増えた	相手の気持ちが配慮できるようになった	ストレスが解消される	自信がついた	性格が明るくなった	体を動かすこと自体が楽しい	食事がおいしく、夜、熟睡できるようになった	体力・身体的機能が向上した	勝利や記録が出た時に嬉しい	その他
肢体不自由 (車椅子必要)	2017 [N=67]	41.8	19.4	11.9	23.9	9.0	17.9	6.0	4.5	13.4	6.0	11.9	3.0	4.5
	2015 [N=51]	31.4	21.6	9.8	27.5	5.9	15.7	5.9	9.8	9.8	5.9	9.8	2.0	2.0
肢体不自由 (車椅子不要)	2017 [N=308]	22.4	27.9	8.4	24.4	5.8	31.8	13.3	7.8	26.3	13.0	27.6	3.2	3.9
	2015 [N=266]	20.7	21.1	5.3	21.4	4.1	28.9	12.0	4.9	25.6	10.2	27.4	4.9	8.3
視覚障害	2017 [N=128]	23.4	24.2	7.8	21.1	2.3	34.4	9.4	7.0	19.5	10.2	26.6	3.9	3.1
	2015 [N=114]	22.8	27.2	10.5	24.6	5.3	35.1	10.5	7.0	23.7	14.9	15.8	2.6	1.8
聴覚障害	2017 [N=133]	25.6	30.8	10.5	24.1	4.5	42.9	15.8	12.0	28.6	10.5	18.0	3.8	2.3
	2015 [N=117]	16.2	22.2	5.1	14.5	5.1	41.9	9.4	4.3	30.8	8.5	20.5	6.0	3.4
知的障害	2017 [N=64]	20.3	21.9	4.7	21.9	10.9	37.5	12.5	7.8	20.3	10.9	15.6	7.8	0.0
	2015 [N=18]	44.4	33.3	5.6	22.2	11.1	27.8	11.1	11.1	33.3	5.6	11.1	5.6	11.1
発達障害	2017 [N=128]	14.8	24.2	11.7	26.6	7.8	41.4	15.6	9.4	25.8	13.3	23.4	4.7	3.1
	2015 [N=82]	17.1	22.0	3.7	17.1	2.4	36.6	12.2	7.3	24.4	12.2	20.7	6.1	6.1
精神障害	2017 [N=475]	15.2	26.1	8.4	32.0	6.3	43.2	15.6	10.7	29.7	16.2	25.1	4.8	4.6
	2015 [N=411]	11.9	23.6	5.1	24.8	2.7	43.1	12.9	7.1	26.8	13.6	24.8	3.6	8.0
その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)	2017 [N=272]	16.9	24.6	5.5	21.0	3.7	43.0	15.4	8.1	25.7	12.9	28.3	4.0	6.3
	2015 [N=227]	13.7	23.3	7.0	18.9	3.1	38.8	13.2	4.0	29.5	12.3	24.7	1.8	3.5

注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 1-37 スポーツ・レクリエーションをやってよかったこと(障害種別)【重度】

(%)

	調査年度	友人が増えた	行動範囲が拡大した	周囲の理解が向上した	外出が増えた	相手の気持ちが配慮できるようになった	ストレスが解消される	自信がついた	性格が明るくなった	体を動かすこと自体が楽しい	食事がおいしく、夜、熟睡できるようになった	体力・身体的機能が向上した	勝利や記録が出た時に嬉しい	その他
肢体不自由 (車椅子必要)	2017 [N=39]	48.7	17.9	10.3	30.8	10.3	17.9	10.3	5.1	15.4	10.3	15.4	2.6	5.1
	2015 [N=28]	35.7	32.1	14.3	35.7	3.6	17.9	3.6	3.6	10.7	3.6	14.3	0.0	0.0
肢体不自由 (車椅子不要)	2017 [N=66]	24.2	36.4	16.7	28.8	10.6	22.7	19.7	10.6	25.8	9.1	28.8	4.5	7.6
	2015 [N=66]	16.7	19.7	3.0	22.7	4.5	24.2	9.1	1.5	18.2	7.6	31.8	4.5	12.1
視覚障害	2017 [N=32]	25.0	21.9	9.4	31.3	6.3	40.6	12.5	3.1	25.0	9.4	25.0	6.3	0.0
	2015 [N=33]	36.4	27.3	12.1	12.1	3.0	18.2	12.1	3.0	18.2	15.2	18.2	6.1	6.1
聴覚障害	2017 [N=31]	38.7	51.6	22.6	32.3	6.5	45.2	22.6	16.1	32.3	16.1	35.5	6.5	0.0
	2015 [N=28]	28.6	32.1	10.7	14.3	3.6	46.4	7.1	3.6	32.1	3.6	21.4	7.1	7.1
知的障害	2017 [N=13]	30.8	30.8	0.0	0.0	15.4	38.5	15.4	15.4	15.4	7.7	7.7	0.0	0.0
	2015 [N=5]	60.0	80.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	60.0	20.0	0.0	20.0	0.0
発達障害	2017 [N=9]	55.6	22.2	44.4	33.3	22.2	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	0.0
	2015 [N=31]	12.9	38.7	6.5	22.6	0.0	29.0	9.7	12.9	16.1	16.1	12.9	0.0	6.5
精神障害	2017 [N=38]	42.1	28.9	15.8	23.7	10.5	28.9	15.8	13.2	10.5	10.5	13.2	5.3	7.9
	2015 [N=167]	11.4	26.3	6.0	29.9	2.4	43.1	13.8	9.0	25.7	15.6	23.4	3.0	9.0
その他(音声・言語・そしゃく機能障害や内部障害を含む)	2017 [N=100]	18.0	23.0	4.0	24.0	2.0	46.0	16.0	4.0	25.0	15.0	36.0	4.0	7.0
	2015 [N=92]	9.8	21.7	8.7	20.7	3.3	40.2	16.3	5.4	26.1	17.4	30.4	2.2	2.2

注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

(7) スポーツ・レクリエーションを行っている施設

スポーツ・レクリエーションを行っている施設について尋ねたところ、利用したことがある施設は、「公共スポーツ施設の体育館」「公共スポーツ施設のプール(屋内)」「公共スポーツ施設のグラウンド」が多かった(図表 1-38)。「その他」で多かったのは、「デイケア・デイサービス」「病院・病院周辺」「自宅・自宅周辺」「公園」などであった。

図表 1-38 スポーツ・レクリエーションを行っている施設(複数回答)

(%)

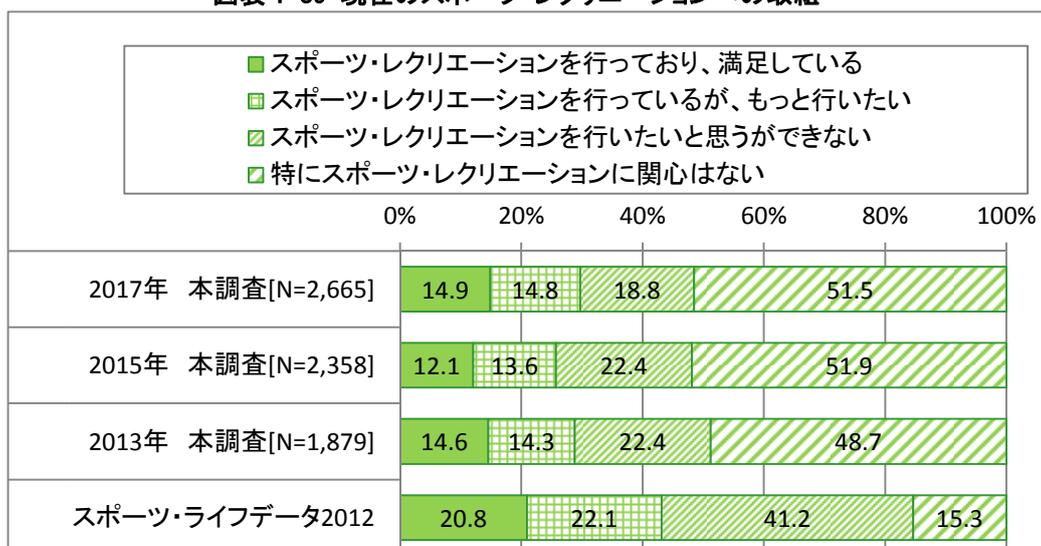
施設		N=3,099	N=187	N=589	N=264	N=325	N=454	N=576	N=720	N=566
		全体	(車椅子 不自由 必要)	(車椅子 不自由 不要)	視覚 障害	聴覚 障害	知的 障害	発達 障害	精神 障害	その他(音声・言語・ その他(音声・言語・ 内部障害を含む)
公共スポーツ施設	体育館	16.4	33.2	12.6	16.3	19.4	16.3	17.4	14.0	15.4
	グラウンド	12.3	17.1	11.7	15.2	17.5	9.7	14.2	10.8	9.9
	プール(屋外)	5.3	8.0	4.6	6.4	6.2	6.2	5.7	4.0	6.0
	プール(屋内)	12.6	15.0	12.6	8.7	8.6	20.3	15.8	11.1	11.5
	トレーニング室	4.0	1.1	4.2	2.3	4.9	3.1	4.2	5.4	3.5
	その他	0.7	0.0	0.5	1.1	0.6	1.1	0.7	1.0	0.7
民間スポーツ施設	体育館	4.7	7.5	3.1	6.4	6.2	4.4	6.3	4.2	4.9
	グラウンド	5.3	7.5	5.4	7.2	7.1	3.3	3.6	6.3	6.0
	プール(屋外)	3.3	4.3	3.6	3.8	4.0	4.2	2.6	1.8	4.6
	プール(屋内)	7.2	5.9	6.8	6.1	8.0	8.6	10.4	5.6	5.3
	トレーニング室	5.0	1.1	6.3	4.5	7.4	2.9	3.0	6.7	4.2
	その他	2.3	0.5	2.0	1.5	2.5	2.4	1.9	2.8	2.7
公立小中学校	体育館	6.4	4.3	2.0	3.8	4.6	9.9	16.8	3.8	5.1
	グラウンド	7.4	4.8	4.6	6.4	6.2	7.7	16.8	3.9	6.0
	プール	2.8	1.1	1.0	2.3	1.5	5.1	6.9	1.4	2.3
	その他	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.5	0.0	0.4
障害者スポーツ専用・ 優先施設	体育館	2.8	8.0	1.4	3.0	3.4	7.0	2.4	1.7	3.2
	小体育館(卓球室、 訓練室等)	2.1	5.3	1.9	1.9	4.0	4.6	3.0	1.8	2.7
	グラウンド	1.7	2.7	1.5	1.9	1.2	3.5	1.6	1.5	2.3
	プール	2.2	3.2	2.0	1.5	2.5	6.4	2.8	1.4	3.0
	その他	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2
福祉施設・高齢者施設	体育館	2.2	2.1	1.9	3.0	2.5	4.8	1.7	2.2	2.3
	小体育館(卓球室、 訓練室等)	2.5	5.9	2.7	1.5	2.5	4.6	2.3	2.8	3.2
	プール	0.7	1.6	0.0	1.5	0.6	1.8	0.7	1.0	1.6
	その他	1.4	4.3	2.4	1.9	1.2	2.2	1.0	1.4	1.4
特別支援学校	体育館	3.5	4.3	1.7	3.0	3.4	13.2	7.1	1.8	3.2
	小体育館(卓球室、 訓練室等)	1.5	1.6	1.0	1.1	2.2	4.6	3.1	0.7	1.4
	グラウンド	3.0	3.7	1.2	5.3	3.7	10.4	4.0	1.4	3.2
	プール	1.5	1.6	1.4	0.8	0.9	6.4	3.0	0.8	2.8
	その他	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0
その他	47.5	19.3	50.3	46.2	43.4	44.1	46.5	56.9	50.7	

(8) 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組

現在のスポーツ・レクリエーションへの取組については、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」(51.5%)が最も多く、次いで「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」(18.8%)であった(図表 1-39)。「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」のは 14.9%であった。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2012)と比較すると、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」無関心層が多かった。

過去1年間のスポーツ・レクリエーションの実施有無別に見ると、非実施者において、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」無関心層が81.7%となり、実施者の約4倍の無関心層がいた(図表 1-40)。

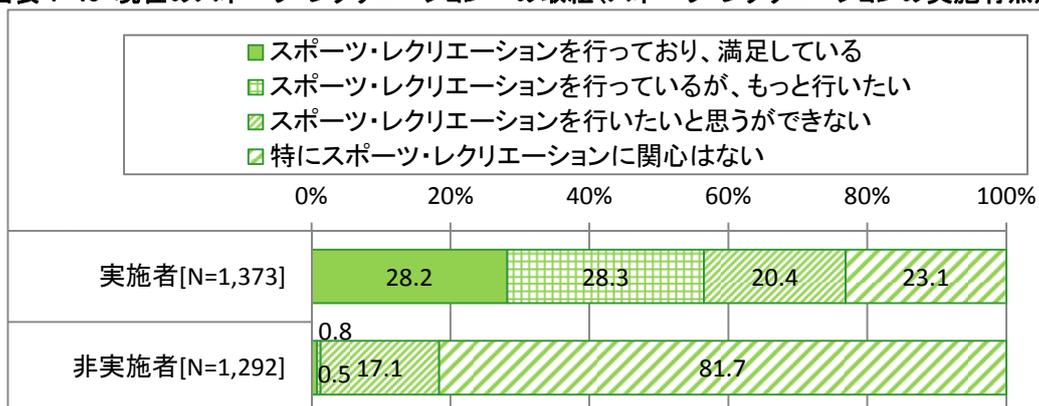
図表 1-39 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組



注 1) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

注 2) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2012): 成人を対象とした全国調査。

図表 1-40 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組(スポーツ・レクリエーションの実施有無別)



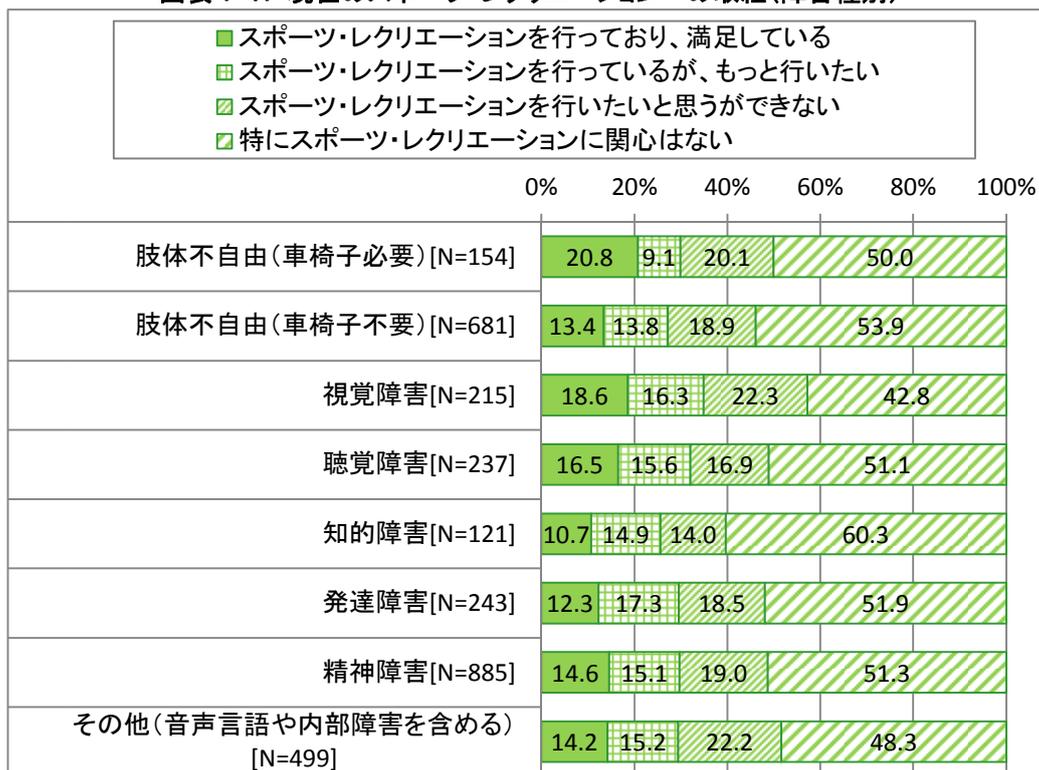
注 1) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

注 2) 非実施者の中に、「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」「スポーツを行っているが、もっと行いたい」と回答した人がいる。矛盾した回答であるが、比較の参考として、そのまま掲載した。

障害種別に見ると、全障害において「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」無関心層の割合が高く、肢体不自由(車椅子必要)、視覚障害においては「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」が2割を超えた。(図表 1-41)。

障害の程度を重度に絞ると、視覚障害では「スポーツ・レクリエーションを行いたいと思うができない」が約3割とほかの障害に比べて高く、聴覚障害では「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」、発達障害では「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」の割合が高かった。重度障害者ほど、スポーツ・レクリエーションへの関心が高く、行いたいと思っているが行えない実態が分かった(図表 1-42)。

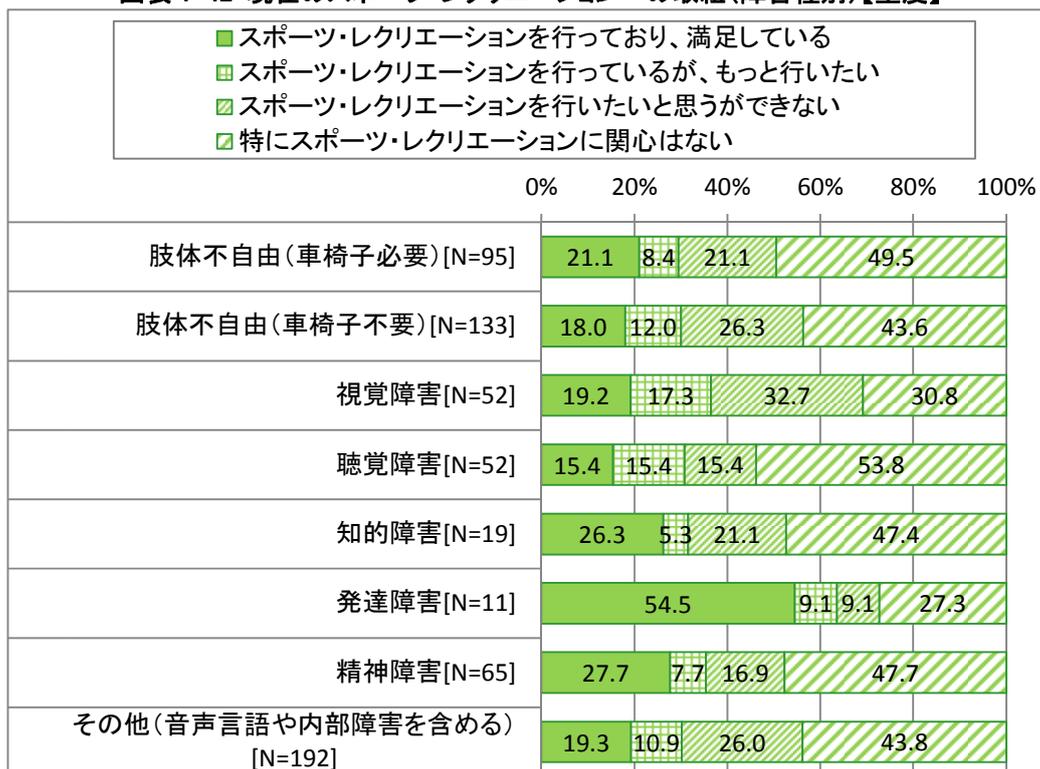
図表 1-41 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組(障害種別)



注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 1-42 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組(障害種別)【重度】



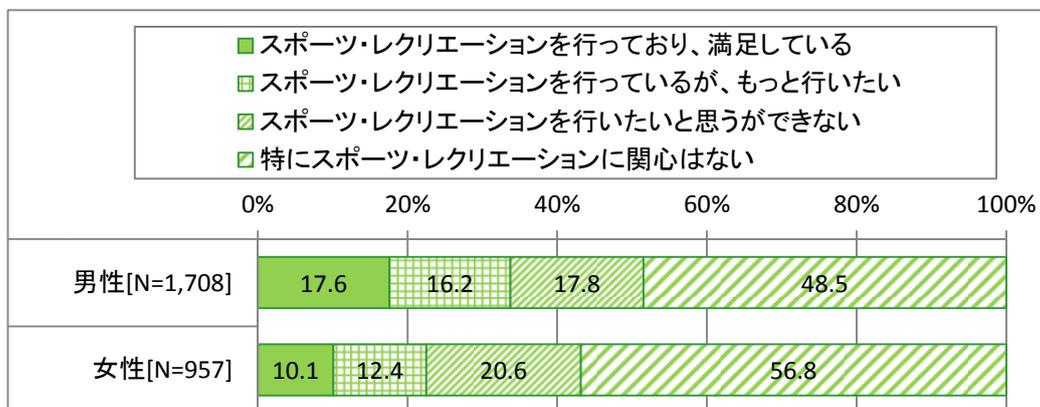
注 1) 車椅子必要／不要とは、日常生活で車椅子を必要とする／必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

性別に見ると、「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」の男性の割合が高く、「特にスポーツ・レクリエーションに関心はない」無関心層の割合では女性の方が高くなった(図表 1-43)。

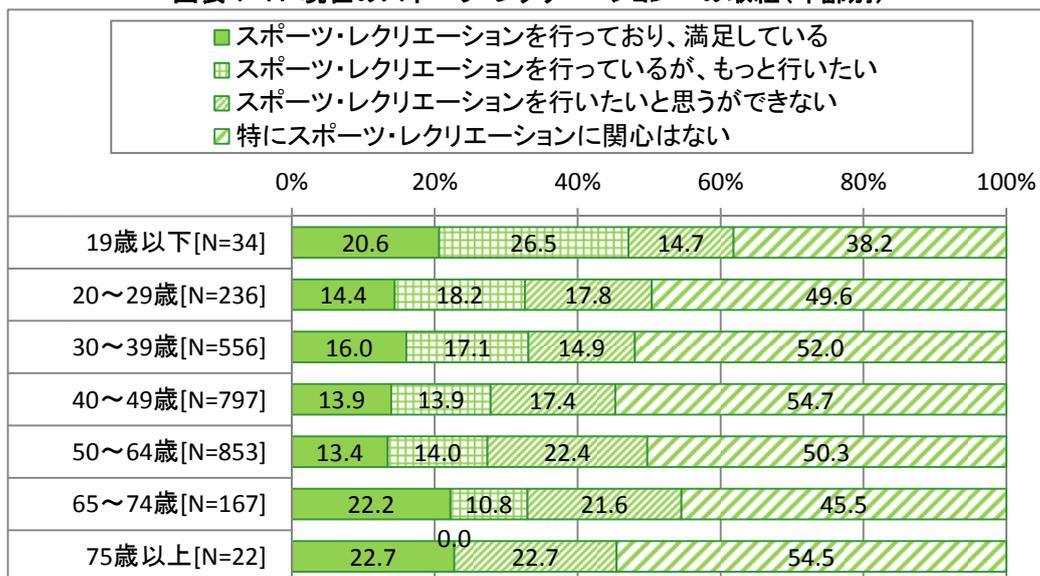
年齢別に見ると、20～64 歳に比べて、65 歳以上では「スポーツ・レクリエーションを行っており、満足している」割合が高かった(図表 1-44)。

図表 1-43 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組(性別)



注)スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 1-44 現在のスポーツ・レクリエーションへの取組(年齢別)



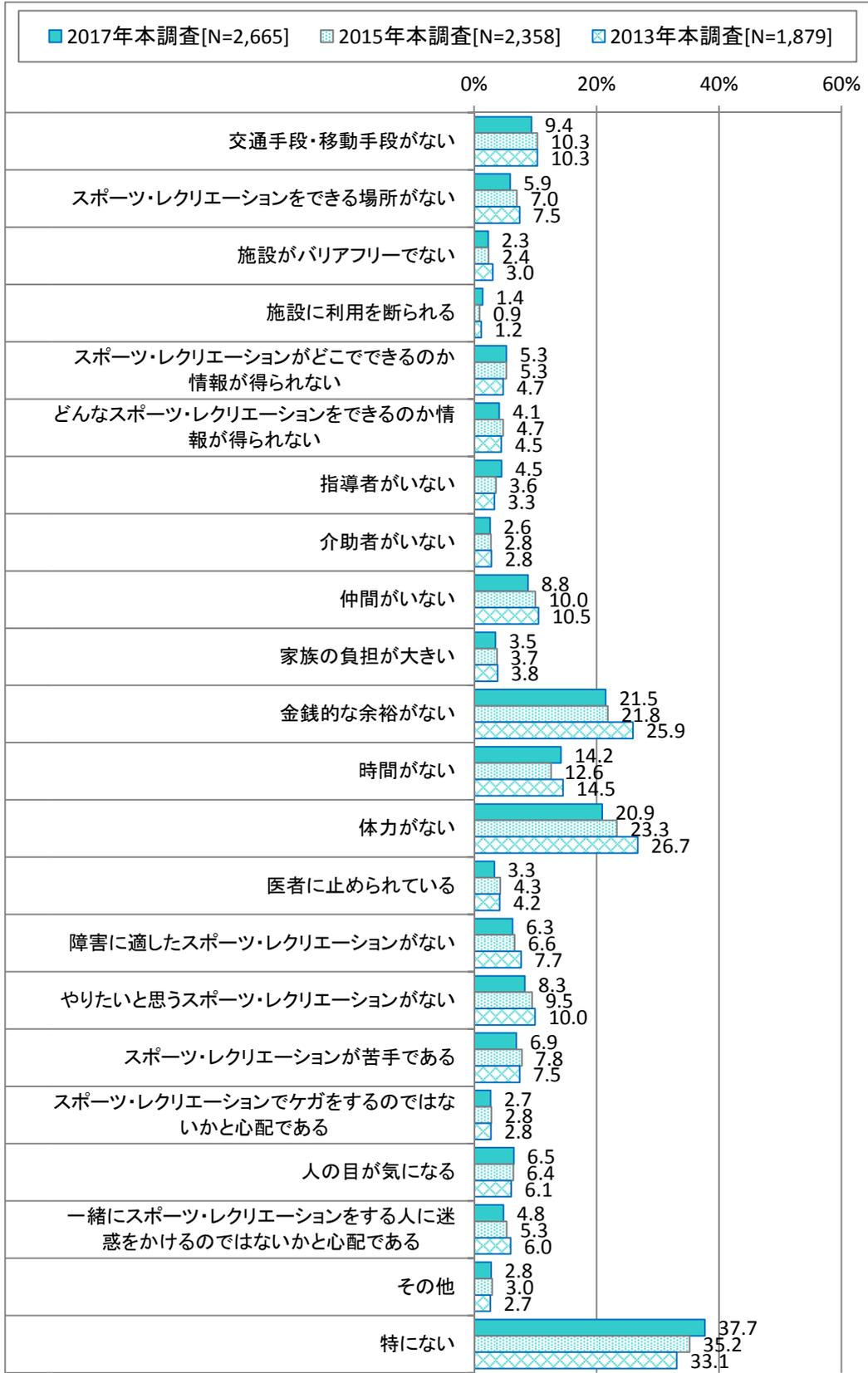
(9) スポーツ・レクリエーションの実施の障壁

スポーツ・レクリエーションの実施において障壁となっているものについて尋ねたところ、「特にない」が37.7%であった。障壁があると回答した中では、「金銭的な余裕がない」(21.5%)が最も多く、次いで「体力がない」(20.9%)、「時間がない」(14.2%)、「交通手段・移動手段がない」(9.4%)、「仲間がいない」(8.8%)であった(図表 1-45)。

障害種別に見ると、前述の障壁に加えて、肢体不自由では車椅子の要・不要にかかわらず、「障害に適したスポーツ・レクリエーションがない」、聴覚障害では「スポーツ・レクリエーションをできる場所がない」、発達障害では「スポーツ・レクリエーションが苦手である」「やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない」が上位になった(図表 1-46)。

障害の程度を重度に絞り、障害種別に見ると、肢体不自由、視覚障害、精神障害において、「交通手段・移動手段がない」「体力がない」「金銭的な余裕がない」が上位になった(図表 1-47)。

図表 1-45 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(複数回答)



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

図表 1-46 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(複数回答)

(%)

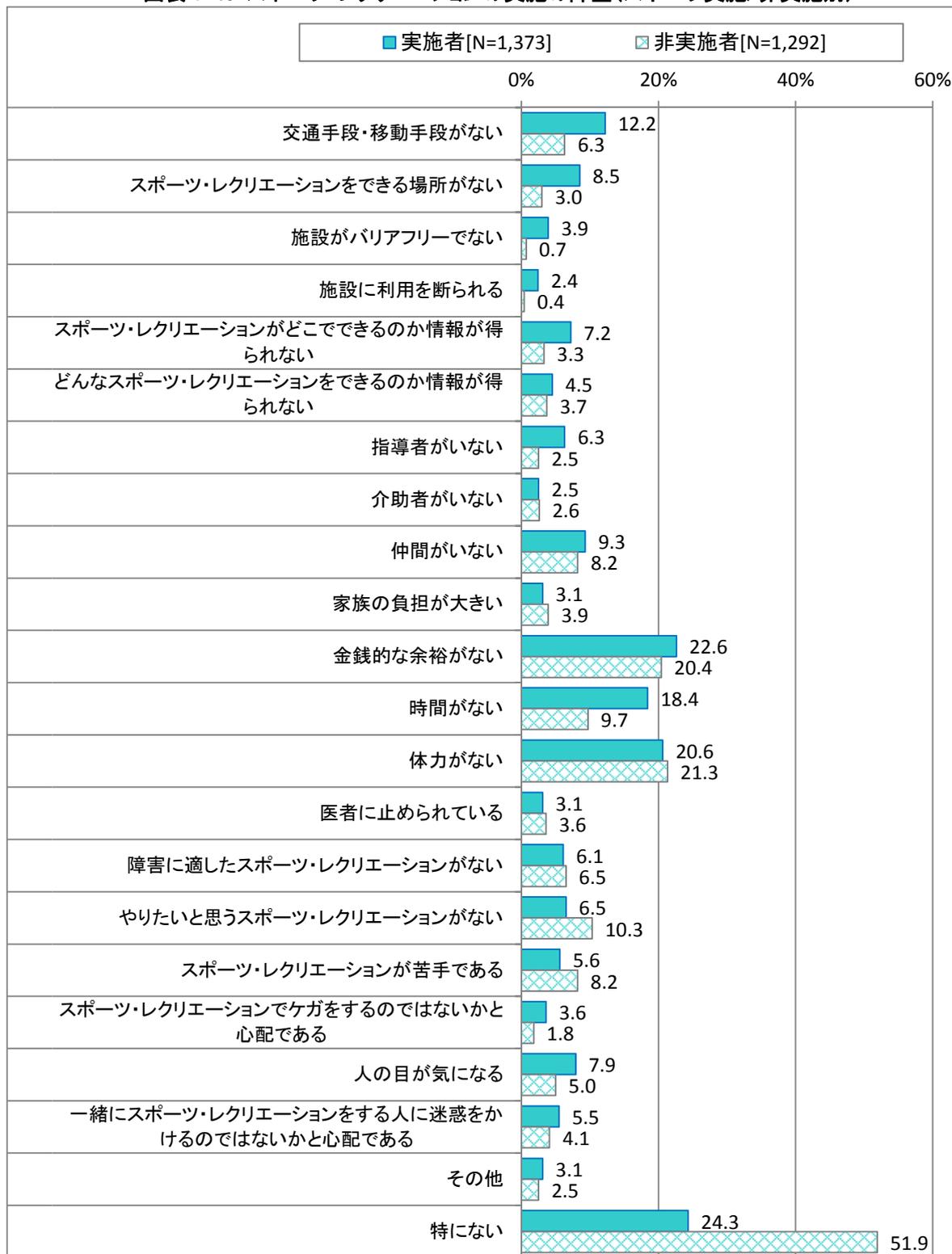
	(車椅子不自由)		(車椅子不自由)		視覚障害		聴覚障害		知的障害		発達障害		精神障害		その他の障害(音声言語や)	
	N=154	N=681	N=215	N=237	N=121	N=243	N=885	N=499								
1位	交通手段・移動手段がない	21.4	体力がない	17.8	金銭的な余裕がない	20.5	時間がない	19.8	金銭的な余裕がない	20.7	金銭的な余裕がない	32.5	金銭的な余裕がない	32.1	体力がない	24.8
2位	体力がない	18.8	金銭的な余裕がない	17.0	時間がない	17.7	金銭的な余裕がない	16.5	時間がない	18.2	体力がない	26.3	体力がない	28.4	金銭的な余裕がない	19.4
3位	金銭的な余裕がない	16.2	時間がない	10.6	体力がない	15.8	体力がない	13.5	交通手段・移動手段がない	14.9	時間がない	18.1	時間がない	16.2	時間がない	15.0
4位	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	13.0	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	10.0	交通手段・移動手段がない	15.8	スポーツ・レクリエーションをできる場所がない	6.8	スポーツ・レクリエーションが苦手である	13.2	スポーツ・レクリエーションが苦手である	17.7	仲間がいない	13.3	交通手段・移動手段がない	9.2
5位	スポーツ・レクリエーションをできる場所がない	12.3	交通手段・移動手段がない	9.1	仲間がいない	11.2	交通手段・移動手段がない	6.3	体力がない	9.9	仲間がいない	14.8	人の目が気になる	12.9	障害に適したスポーツ・レクリエーションがない	8.8
	特にない	31.2	特にない	42.3	特にない	34.9	特にない	42.2	特にない	44.6	特にない	30.9	特にない	30.8	特にない	33.5

注 1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。

注 2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

スポーツの実施／非実施別に見ると、「交通手段・移動手段がない」「スポーツ・レクリエーションをできる場所がない」「時間がない」においては、実施者の割合が高く、「やりたいと思うスポーツ・レクリエーションがない」「スポーツ・レクリエーションが苦手である」においては、非実施者の割合が高かった(図表 1-48)。「特にない」の非実施者の割合も高かった。

図表 1-48 スポーツ・レクリエーションの実施の障壁(スポーツ実施/非実施別)



注) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害児・者である場合に限定した。

(10) 今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション

今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション(現在行っているスポーツ・レクリエーションを含む)については、どの障害においても「特にない」との回答が多かった。行いたいと思うスポーツ・レクリエーションの中では、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「水泳」「筋力トレーニング」の回答が多く(図表 1-49)、この傾向は、過去 1 年間に行ったスポーツ・レクリエーション(図表 1-26、図表 1-27、図表 1-28)と同様の結果である。また、笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2016)においても、「散歩(ぶらぶら歩き)」「ウォーキング」「筋力トレーニング」の実施希望が高く、本調査も同じ傾向を示した。

図表 1-49 今後行いたいと思うスポーツ・レクリエーション(障害種別・成人:N=2,631)(複数回答) (%)

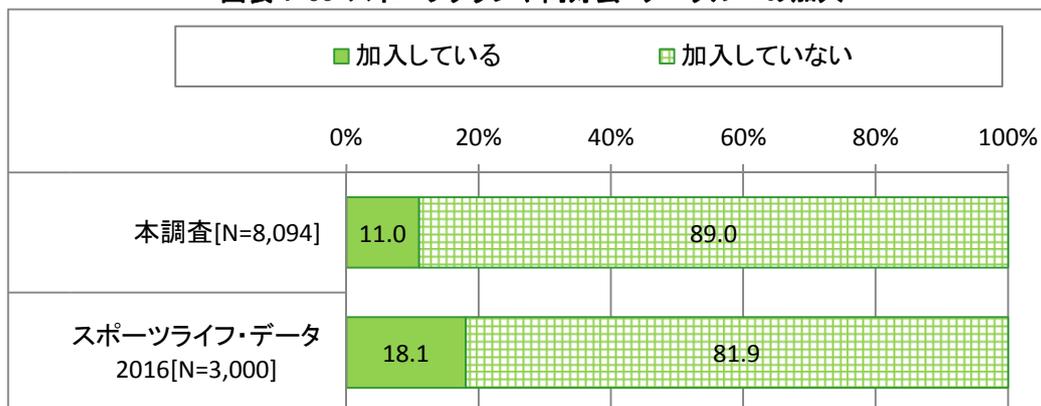
順位	(車椅子不自由) 必要	(車椅子不自由) 不要	聴覚障害		知的障害		発達障害		精神障害		内その他(音声言語、読字)	ラ(参考) 1-6	等(参考) 1-6
			N=213	N=233	N=115	N=235	N=871	N=494	20	26.3			
1位	6.6	14.9	17.4	18.3	11.3	18.3	22.3	20.6	26.3	26.3	20.6	26.3	26.3
2位	5.3	14.8	14.1	15.0	7.8	15.7	21.8	16.2	25.4	25.4	16.2	25.4	25.4
3位		10.8	12.7	9.4	7.8	12.3	13.1	10.1	18.0	18.0	10.1	18.0	18.0
4位	4.6	9.5	8.9	8.6	6.1	10.6	12.6	8.7	14.7	14.7	8.7	14.7	14.7
5位		9.3	8.0		6.1	10.2	12.1		12.8	12.8		12.8	12.8
6位		7.0	7.5	7.7			10.4	7.9	12.2	12.2	7.9	12.2	12.2
7位		6.7	7.0	7.3	5.2	9.8	9.9	7.5	10.3	10.3	7.5	10.3	10.3
8位	3.9	5.6	6.6			8.5	9.6	7.1			7.1		
9位		5.6	5.6	6.4	6.4	9.4	9.4	6.9	9.3	9.3	6.9	9.3	9.3
10位		5.2	5.6	5.6	8.1	6.5	6.5	5.7			5.7		
11位	3.3			8.0	4.3	6.4	6.4						
特がない	51.3	47.9	43.2	45.1	49.6	42.6	39.4	39.9					

注1) 車椅子必要/不要とは、日常生活で車椅子を必要とする/必要としないこと。
 注2) スポーツ・レクリエーションへの意識に関する設問のため、対象を回答者本人が障害者である場合に限定した。
 注3) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2016)：成人を対象とした全国調査。
 注4) 文部科学省「体力・スポーツに関する世論調査」(平成28年11月)：全国20歳以上の日本国籍を有する者が対象

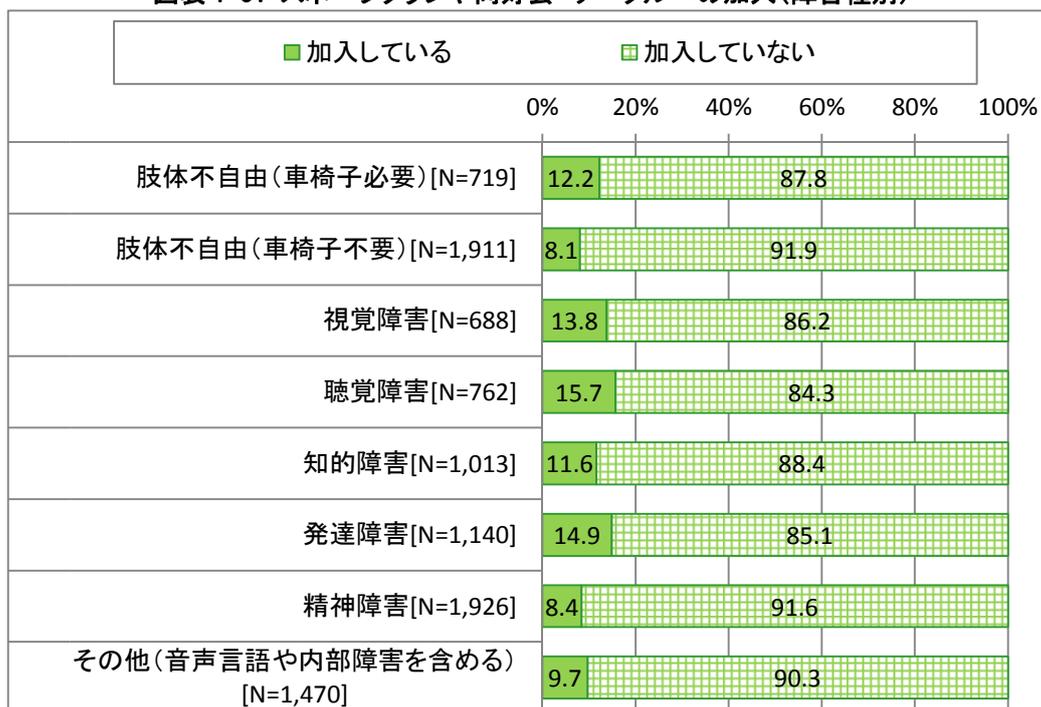
(11) スポーツクラブや同好会・サークルへの加入

スポーツクラブや同好会・サークルに加入しているかについて尋ねたところ、「加入している」は 11.0%であった(図表 1-50)。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2016)では、スポーツクラブや同好会・サークルに加入しているのは 18.1%であった。障害種別に見ると、聴覚障害で 15.7%、発達障害で 14.9%、視覚障害で 13.8%が加入していた(図表 1-51)。

図表 1-50 スポーツクラブや同好会・サークルへの加入

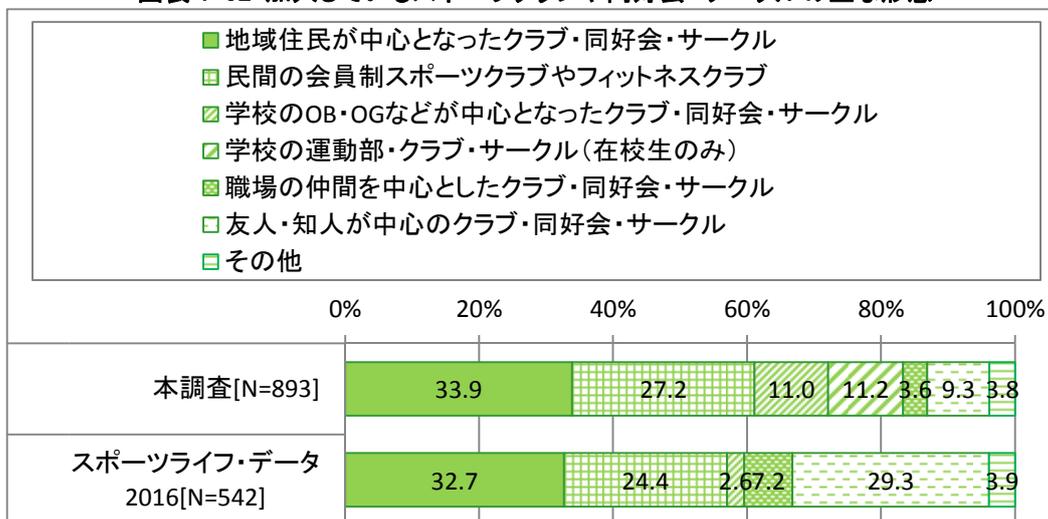


図表 1-51 スポーツクラブや同好会・サークルへの加入(障害種別)



加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な形態について見ると、「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」(33.9%)が最も多く、次いで「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ」(27.2%)、「学校の運動部・クラブ・サークル(在校生のみ)」(11.2%)、「学校のOB・OGなどが中心となったクラブ・同好会・サークル」(11.0%)であった(図表 1-52)。

図表 1-52 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な形態

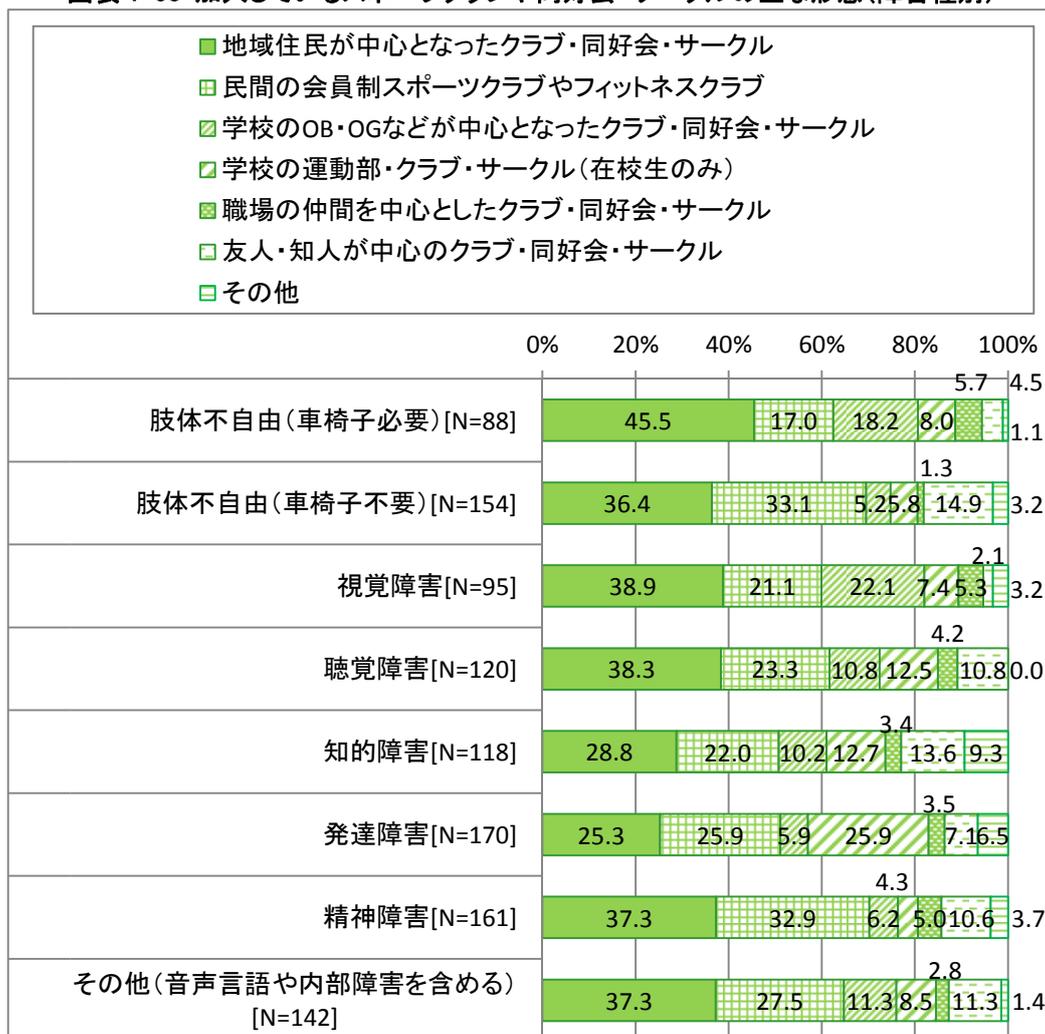


注 1) 笹川スポーツ財団「スポーツライフ・データ」(2016)では、選択肢「学校の運動部・クラブ・サークル(在校生のみ)」はない。

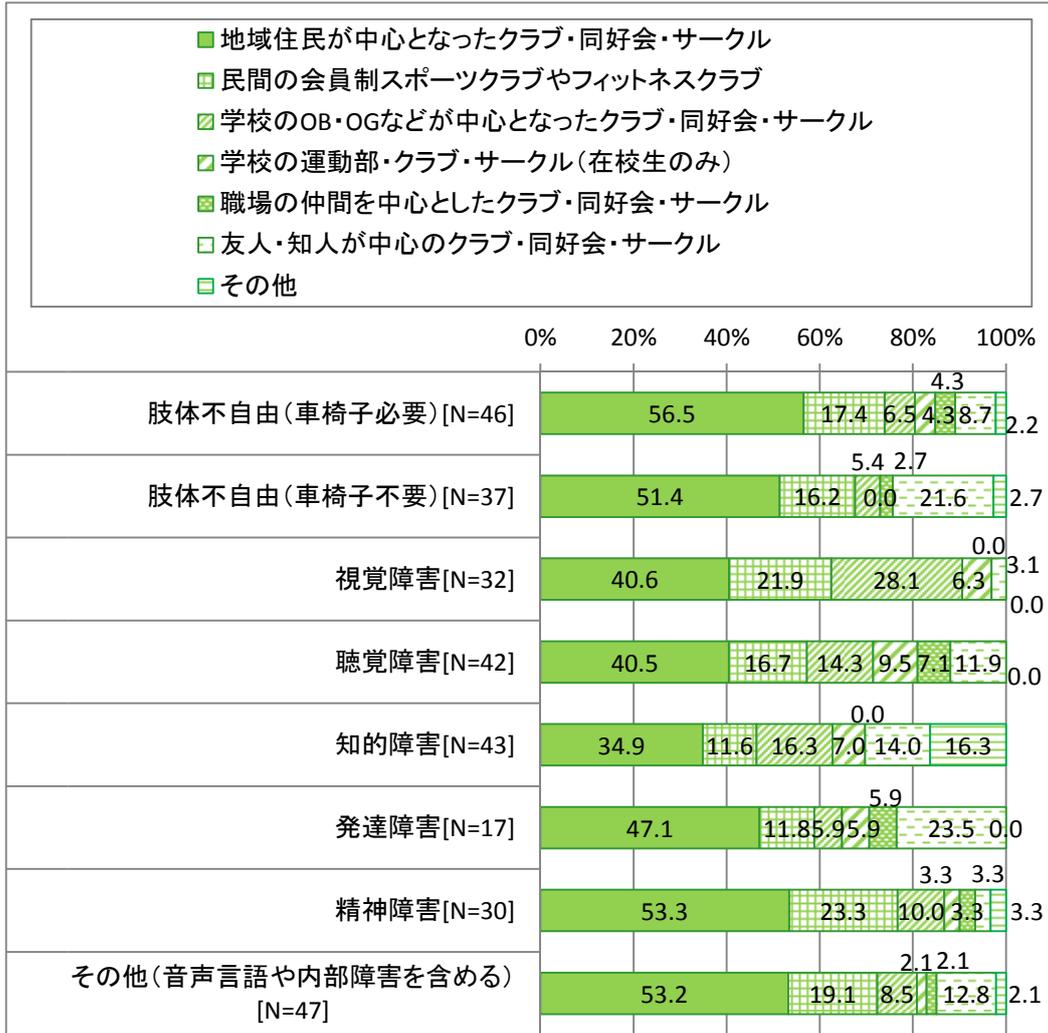
障害種別に見ると、肢体不自由(車椅子必要)では「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」(45.5%)、肢体不自由(車椅子不要)、精神障害では「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ」(33.1%) (32.9%)、視覚障害では「学校のOB・OGなどが中心となったクラブ・同好会・サークル」(22.1%)、発達障害では「学校の運動部・クラブ・サークル(在校生のみ)」(25.9%)がほかの障害に比べて高かった(図表 1-53)。

障害の程度を重度に絞り障害種別に見ると、肢体不自由、精神障害では、「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」の割合が5割を越えた(図表 1-54)。

図表 1-53 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な形態(障害種別)

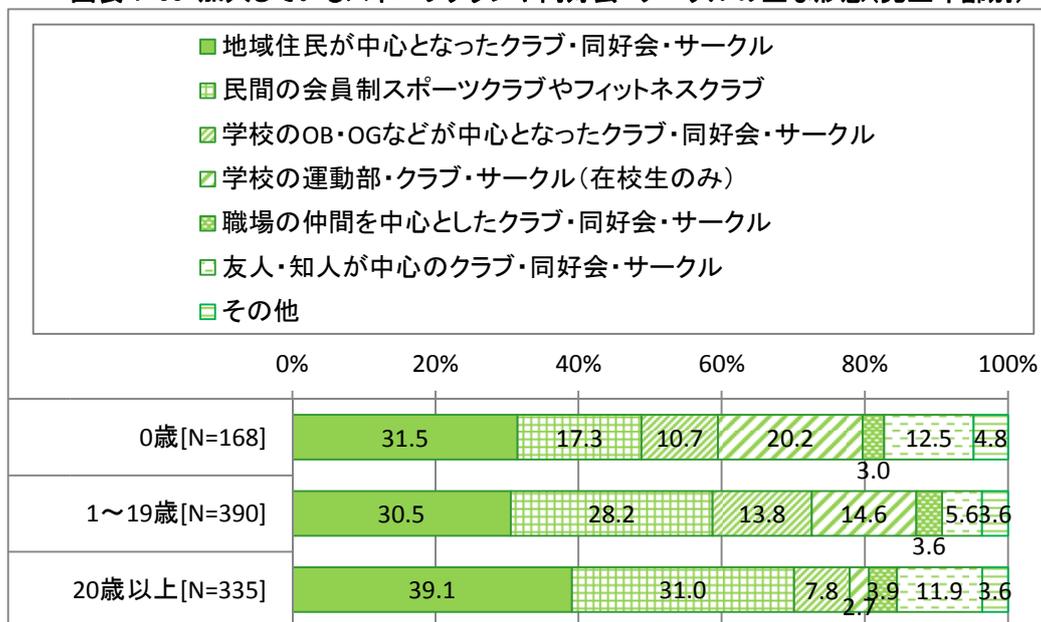


図表 1-54 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な形態(障害種別)【重度】



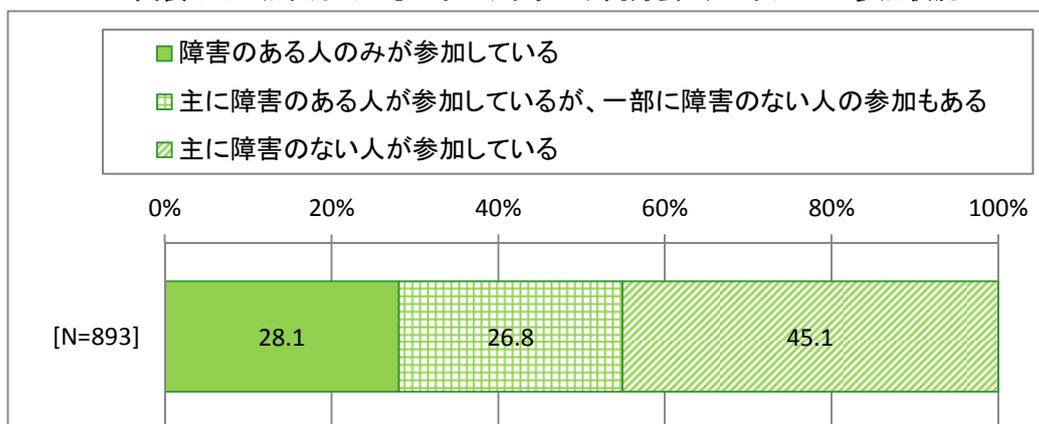
発生年齢別に見ると、全年齢とも「地域住民が中心となったクラブ・同好会・サークル」が最も高く、次いで、0歳では「学校の運動部・クラブ・サークル(在校生のみ)」(20.2%)、1～19歳と20歳以上では「民間の会員制スポーツクラブやフィットネスクラブ」(28.2%) (31.0%)が高く、障害の発生以前から加入しているクラブ・同好会・サークルに、障害が発生した後も参加している状況が考えられる(図表 1-55)。

図表 1-55 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルの主な形態(発生年齢別)

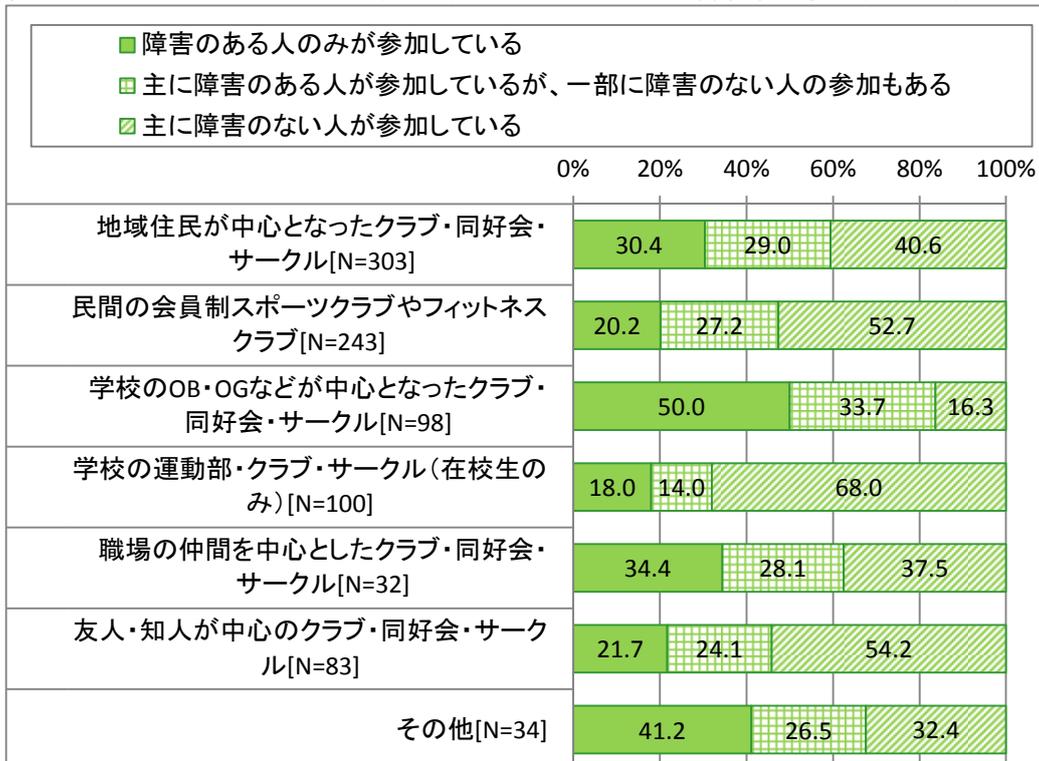


加入しているスポーツクラブや同好会・サークルへの障害者の参加状況について見ると、「障害のある人のみが参加している」は 28.1%で、「主に障害のある人が参加しているが、一部に障害のない人の参加もある」(26.8%)とあわせると、半数を越えた(図表 1-56)。クラブの形態別に見ると、「学校の OB・OG などを中心となったクラブ・同好会・サークル」では、「障害のある人のみが参加」しているが 50.0%で、「主に障害のある人が参加しているが、一部に障害のない人の参加もある」(33.7%)とあわせると 8 割を越えた(図表 1-57)。

図表 1-56 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルへの参加状況



図表 1-57 加入しているスポーツクラブや同好会・サークルへの障害者の参加状況(クラブの形態別)



(12) 過去1年間のスポーツ観戦の有無

過去1年間のスポーツ観戦の有無では、直接のスポーツ観戦、テレビでのスポーツ観戦、インターネットでのスポーツ観戦の全てにおいて、「観戦した種目はない」が最も多かった。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」(2016)によると、直接のスポーツ観戦をしたことないが67.1%、テレビでのスポーツ観戦をしたことないが12.0%であった。障害者のスポーツ観戦は、直接のスポーツ観戦では、一般と同様の傾向を示したが、テレビでのスポーツ観戦では、「観戦した種目はない」が47.4%となっており、一般に比べて低いことが分かる(図表1-58)。観戦した種目を見ると、直接のスポーツ観戦では「プロ野球(NPB)」「高校野球」「Jリーグ(J1、J2、J3)」、テレビでのスポーツ観戦では「プロ野球(NPB)」「高校野球」「大相撲」、インターネットでのスポーツ観戦では「プロ野球(NPB)」「高校野球」「Jリーグ(J1、J2、J3)」が多かった。

図表1-58 過去1年間のスポーツ観戦の有無(複数回答)

(%)

	直接スポーツの試合を観戦したことがある			テレビでスポーツの試合を観戦したことがある			インターネットでスポーツの試合を観戦したことがある
	本調査(全体)	本調査(成人)	スポーツライフ・データ2016	本調査(全体)	本調査(成人)	スポーツライフ・データ2016	本調査(全体)
	N=8,094	N=6,700	N=3,000	N=8,094	N=6,700	N=3,000	N=8,094
プロ野球(NPB)	16.5	16.8	15.6	31.2	33.3	53.8	8.1
メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	1.7	1.9	-	10.9	12.1	19.7	1.9
高校野球	5.1	5.4	5.5	23.2	25.2	48.4	2.6
アマチュア野球(大学、社会人など)	2.1	2.1	1.5	4.0	4.5	-	1.4
Jリーグ(J1、J2、J3)	4.5	4.5	5.3	10.9	11.5	25.3	2.2
海外プロサッカー(欧州、南米など)	1.2	1.2	-	5.9	6.4	-	1.5
サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	1.8	1.8	0.9	16.9	18.2	45.3	1.6
サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	1.1	1.0	-	8.7	9.4	30.9	1.3
サッカー(高校、大学、JFLなど)	1.3	1.3	2.4	4.2	4.6	-	0.9
プロバスケットボール(Bリーグ)	0.9	0.8	0.8	3.2	3.3	-	0.9
海外プロバスケットボール(NBAなど)	0.5	0.5	-	2.6	2.7	-	0.9
バスケットボール(高校、大学など)	0.8	0.8	1.4	1.8	1.8	-	0.7
バレーボール(日本代表試合)	0.8	0.9	-	9.3	9.9	-	0.7
バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	0.8	0.8	1.4	3.2	3.5	-	0.5
大相撲	2.9	3.3	1.2	22.5	25.2	38.0	1.2
マラソン・駅伝	2.5	2.6	3.9	16.7	18.4	43.2	1.0
ラグビー	1.1	1.1	1.3	6.0	6.9	19.0	0.7
プロテニス	1.0	1.0	-	10.5	11.6	36.5	1.1
プロゴルフ	1.2	1.3	1.3	8.6	10.0	23.5	1.1
フィギュアスケート	1.0	1.0	0.5	15.6	17.0	46.2	1.2
格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	1.4	1.6	1.2	8.8	10.0	19.9	1.2
F1やNASCARなど自動車レース	0.8	0.9	0.5	4.5	5.0	-	1.3
その他	0.5	0.5	-	0.8	0.8	-	0.4
観戦した種目はない	72.0	72.0	67.1	47.4	45.3	12.0	81.4

障害種別に見ると、直接のスポーツ観戦、テレビでのスポーツ観戦ともに、聴覚障害の観戦率が高く、知的障害の観戦率が低かった(図表 1-59、1-60)。

図表 1-59 過去 1 年間のスポーツ観戦の有無【直接観戦】(障害種別)

(%)

直接観戦	(車椅子 必要)	(車椅子 不要)	視覚 障害	聴覚 障害	知的 障害	発達 障害	精神 障害	その他(音声言語や 内部障害を含める)
	N=719	N=1,911	N=688	N=762	N=1,013	N=1,140	N=1,926	N=1,470
プロ野球(NPB)	16.0	15.2	15.8	20.2	14.0	15.0	16.5	16.7
メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	2.5	1.9	1.6	2.2	1.4	0.8	1.5	1.6
高校野球	3.2	5.3	6.1	6.2	2.6	4.8	5.8	5.6
アマチュア野球(大学、社会人など)	2.8	1.1	2.8	3.8	1.5	1.8	2.3	2.9
Jリーグ(J1、J2、J3)	2.4	3.1	4.1	4.9	5.3	6.1	5.5	4.2
海外プロサッカー(欧州、南米など)	1.5	1.0	1.6	1.8	0.8	1.1	1.1	1.4
サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	1.8	1.5	2.0	2.0	0.5	1.4	2.2	2.2
サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	1.3	0.6	1.6	2.0	0.9	1.1	0.9	1.1
サッカー(高校、大学、JFL など)	1.1	0.8	2.2	2.0	0.9	0.9	1.5	1.7
プロバスケットボール(Bリーグ)	0.6	0.4	0.9	2.4	1.1	1.1	0.9	0.5
海外プロバスケットボール(NBA など)	0.6	0.4	0.6	0.9	0.5	0.4	0.6	0.3
バスケットボール(高校、大学など)	1.0	0.5	1.7	1.4	0.7	0.9	0.8	0.5
バレーボール(日本代表試合)	1.0	0.4	0.7	1.4	0.7	1.1	0.9	0.9
バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	0.8	0.6	0.9	1.3	0.8	1.1	1.0	1.0
大相撲	1.8	3.0	2.8	3.8	1.8	2.0	3.2	3.6
マラソン・駅伝	1.3	1.9	1.9	3.0	2.6	2.5	3.4	3.0
ラグビー	0.6	1.0	1.3	1.7	0.7	1.0	1.0	1.0
プロテニス	1.1	0.5	1.7	1.7	0.8	0.7	0.9	1.7
プロゴルフ	1.3	1.2	1.3	1.7	0.8	0.7	1.0	1.5
フィギュアスケート	0.7	0.7	1.6	1.6	1.3	1.3	1.3	0.7
格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	1.0	1.2	1.0	1.2	0.8	1.8	2.1	1.4
F1 や NASCAR など自動車レース	0.6	0.6	0.7	1.0	0.5	0.9	1.3	0.5
その他	0.1	0.4	0.1	0.7	0.3	0.7	0.5	0.8
観戦した種目はない	75.4	74.5	70.9	66.4	75.9	70.7	73.6	70.9

図表 1-60 過去 1 年間のスポーツ観戦の有無【テレビ観戦】(障害種別)

(%)

テレビ観戦	肢体不自由 (車椅子必要)	肢体不自由 (車椅子不要)	視覚障害	聴覚障害	知的障害	発達障害	精神障害	その他(音声言語 や内部障害を含め る)
	N=719	N=1,911	N=688	N=762	N=1,013	N=1,140	N=1,926	N=1,470
プロ野球(NPB)	27.0	32.1	31.4	34.3	23.7	27.0	33.0	35.2
メジャーリーグ(アメリカ大リーグ)	8.2	12.1	11.8	12.3	6.4	8.6	11.8	13.5
高校野球	17.5	24.4	23.3	24.1	14.7	19.5	26.2	28.6
アマチュア野球(大学、社会人など)	3.6	3.2	3.9	4.9	2.9	2.7	5.1	5.2
Jリーグ(J1、J2、J3)	7.1	10.4	11.3	11.3	8.0	11.1	12.6	12.8
海外プロサッカー(欧州、南米など)	4.0	6.3	4.2	6.7	3.2	5.7	7.7	7.4
サッカー日本代表試合(五輪代表含む)	12.0	18.1	15.8	17.2	10.5	16.2	18.0	19.7
サッカー日本女子代表試合(なでしこジャパン)	5.6	9.2	7.8	8.7	5.2	7.5	10.0	10.6
サッカー(高校、大学、JFL など)	2.9	4.5	4.9	4.6	2.7	3.3	5.0	4.8
プロバスケットボール(Bリーグ)	2.1	2.9	3.6	3.0	3.0	3.8	3.8	3.3
海外プロバスケットボール(NBA など)	1.5	2.3	3.1	2.8	2.7	3.0	3.4	3.0
バスケットボール(高校、大学など)	1.4	1.3	2.5	2.0	1.5	2.2	2.4	1.6
バレーボール(日本代表試合)	6.7	7.6	9.3	10.2	8.3	10.9	11.3	11.1
バレーボール(高校、大学、Vリーグなど)	2.2	2.5	3.8	3.3	2.2	3.0	4.8	4.2
大相撲	20.2	25.0	23.4	25.7	15.1	16.1	25.4	27.8
マラソン・駅伝	11.7	19.0	17.2	18.8	8.7	13.6	18.0	21.6
ラグビー	3.5	6.6	6.8	5.0	2.4	4.4	7.7	7.5
プロテニス	7.0	11.4	9.9	12.3	4.1	8.6	12.5	13.1
プロゴルフ	6.1	10.4	9.3	10.1	3.9	4.8	9.5	11.7
フィギュアスケート	11.4	15.3	15.3	15.0	10.0	14.6	19.4	18.5
格闘技(ボクシング、総合格闘技など)	6.0	10.4	8.4	9.4	3.4	6.9	10.0	11.1
F1 や NASCAR など自動車レース	1.9	4.8	5.1	4.2	2.1	4.1	6.1	5.3
その他	0.7	0.9	0.3	0.8	0.4	0.9	1.0	1.0
観戦した種目はない	50.6	48.6	47.1	39.9	57.8	52.6	46.6	40.4